

通 類 摺

りぼとろと

新 年 號

昭和十二年十月廿五日第三種郵便物認可
昭和十一年十二月廿日印刷(毎月一回發行)
「通類摺」第百廿四號 第十二年一月號



無敵艦隊 恋愛

夏川大二郎主演

清水宏監督得意
學生成明快篇

高峰三枝 内宅三枝
豐田美枝 三枝
近衛敏子 三枝
突貫小僧 明子
共演



松竹春映

風味必ず御氣に召す

天ぶら御料理

季節向御料理

佛蘭西御料理

芝居情緒と食道樂

喜久屋食堂

道頓堀戎橋北詰

御芝居の歸りには打ち揃ふて

お座席では非御會食を！

支店

大阪支店

京都支店

心齋橋筋八幡筋角
北新地裏町
木屋町ドングリ橋





★道頓堀 一月號 目次★

トビラ.....扇雀の權太

フラグ

▼中	座	關西大歌舞伎
▼角	座	關西新派劇
▼歌舞伎	座	東京松竹少女歌劇
▼文樂	座	人形淨瑠璃初春興行
▼南	座	井上水谷合同劇
▼松竹劇場	場	若手歌舞伎

第五回目の廻り年

鴈三回忌追善興行.....白井松次郎 (三)

新興に傾けた努力五年

今ぞ仰ぐ麗朗の春.....白井信太郎 (三)

商業演劇の新らしき途

中井駿二 (四)

大阪歌舞伎に望む

富田泰彦 (九)

●扇雀ご新作.....菱田正男 (四)

廻り歳の俳優と

子支に因む狂言..... (七)

新年張切帳

曾我廼家五郎 (六)

十八十色..... (一〇)



チ リ 鍋.....比 左 次 (四)

漫才丑五郎.....大槻たもつ (三)

新春映画カッツ集..... (三)

リボントウド シクセ
春ノ松竹映画..... (三)

中村芳子さん訪問記.....源多徳三郎 (三七)

女優百態 (東愛子の巻).....紅文山人 (五)

關西新派の大衆性に就て.....都築文男 (四六)

◇扱・春のお芝居は.....大橋孝一郎 (四)

旅 の 話.....石河 薫 (四九)

市川右團次一代記.....大川 殿 江 (五七)

映画人の舞臺の思出..... (五)

●尾上榮五郎 ●阪東橋之助

對 話.....櫓 ノ ボ ル (五九)

大木戸 徹 (五九)

★讀者通信.....池尻 勝彦 (五九)

懸 賞..... (六〇)

表 紙.....妹脊平三畫

カ ャ ト.....げん た 生

銘酒

白雪

攝津伊丹灘

小西酒造株式會社



「霜夜鐘十字辻」 中座・初春芝居

玉梅村中——郎三正浦六

若延川實——庵宗摩按

郎三壽東阪——助金僧小員官

車魁村中——村お婦情



中座・初春芝居

“朧の夜夢”



上
番頭 七定 一 三郎 家後 勝一 梅玉
娘 お光 芳子
隠居 牧自 施市 藏 淡路屋 霞仙
下
丁 稚勇 吉 助之右



東京松竹女人歌劇

逆問

エリホ♦キータ
演奏名余百二

五十二時
五時半
開演



2 娘 氣 質 江 戸 八 景 十景
1 王 女 と ペ ー プ ル 十景

コンパニード

梅田驛到着

廿八日午後八時廿分

一行二百餘名は

貴様の御便宜のために、
◆聖幸指定席券は一月七日
までを廿六日より發賣し
たします
◆祇等より櫻までは前日より發賣いたします

同文書局

大器 堪劇、暖

舞臺照明裝置
及設計一切
特殊照明工事

米國ユニヴァーサル電氣舞臺照明會社
同　　デイヌプレー電氣舞臺照明會社
同　　キヤピートル電氣舞臺照明會社
同　　センチュリー電氣舞臺照明會社
同　　ラスコ研究所

大阪市東區京橋前ノ町三

バグナル株式會社

電話東(49)
五二〇〇二番

皆様の常備薬として

有名な濕布代用薬

「巴ザルベ」を是非御備へ利用下さい

一度使へば必ず二度と

御満足を與へる確實な薬

大阪市北区曾根崎上三丁目角

巴ザルベ
代理店

飯 田 青 松 堂

電話 北一八〇三番
振替 大阪一六三七七番

理 髮

モモタロー

定休日 十一日 廿五日

電話南 { 2010
 { 2317

美容の尖端は頭から……..
頭の美容はモモタローから……..



あゆむる宣伝廣告・プロセスメイクアップ製作

廣 告 商 事 社

田 中 勝 造



大阪千日前 電話三七九〇番
ミナミナ

戎橋電停前

ウ エ ム ラ

看板
裝飾

電話南五一六二番

看板と商業美術一般

津村英夫

大阪市西成區辰巳通二ノ三六
電話 天弓茶屋三六七八番

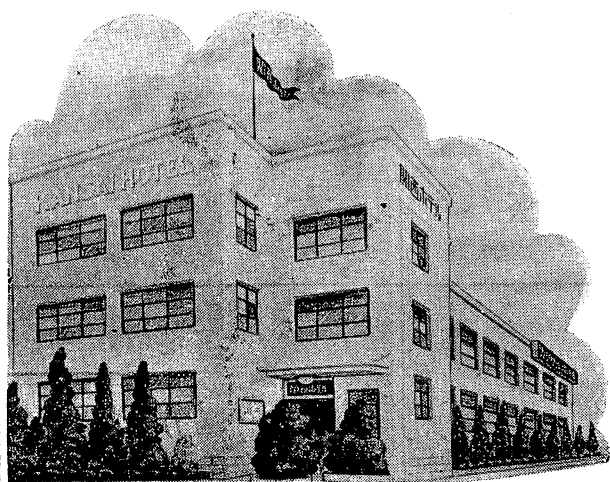
高級喫房

バザード

道頓堀辨天座前

新開館
築

関西ホテル



大阪アベノ橋交叉東

御泊
A ¥2.00 B ¥3.00
御二人様五割増

電話 天王寺
(77) 3939
3938・3930

金鶏印 罐詰 二大製品

- 1. 純良精選の牛肉
で御座います
- 1. 不意の御來客に
- 1. 御酒ビールの御友に
- 1. キャンピングに
- 1. ハイキングに
- 1. 各地百貨店
著名食料品店
に販賣致して居ります
- 1. キンケイ印を御指定下さ
い



洋酒・食料品・罐詰問屋

大阪市東區豊後町三番地

株式會社 横山商店

！力偉のンモルホ髓骨とンモルホトウア血造



安産弱兒に
ネブルトーゼ錠

貧血を防ぎ・抵抗力を強化す



頭脳明晰に
ネブルトーゼ錠

疲労を恢復し神経衰弱を防ぐ



精力旺盛に
ネブルトーゼ錠

血液を新生し・體力を増強す

株式會社

藤澤友吉商店

大阪市東區道修町
東京日本橋區本町

廉價	一八〇錠	一・〇〇
低價	三六〇錠	一・八〇
一〇〇〇錠	四・五〇	

御申越次第進呈す

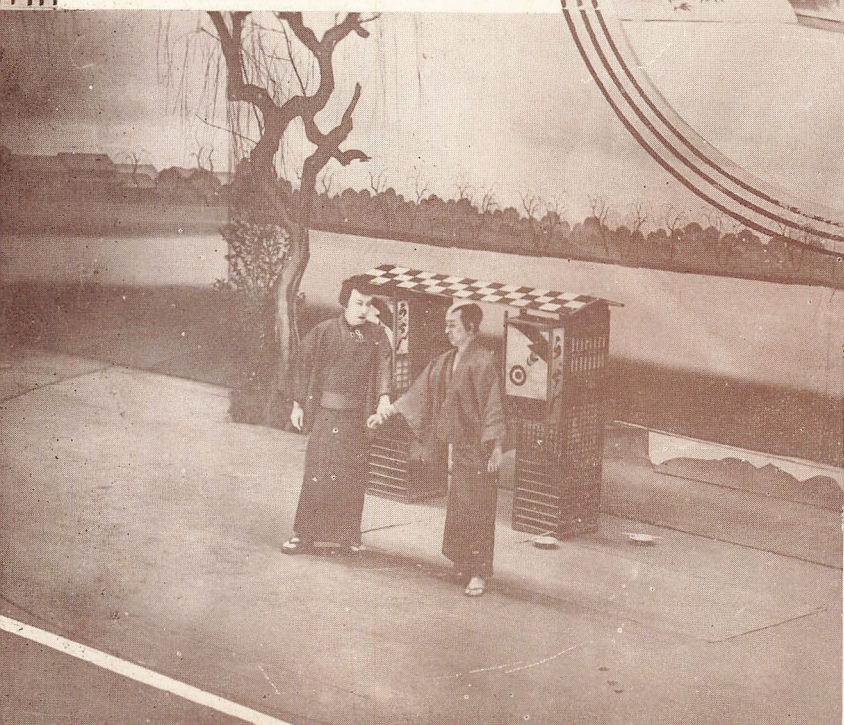
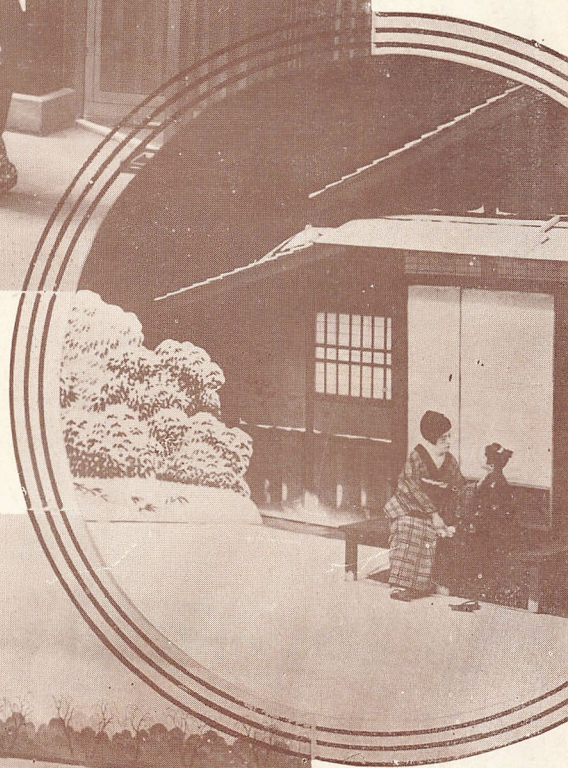
醫學博士勝慶德先生述

安産讀本

健康法の説明書
血液の話

ネオブルトーゼは補血強壯劑ブルトーゼに哺乳動物の骨髓及骨質成分を配合したものでありまして骨髓ホルモン・造血アウトホルモン・レチニン・グリコゲン・動物性カルシウム・鐵・磷等貴重な栄養素を含有し人體の造血機能をやめ病氣に對する抵抗力を養ひ榮養を充實し體質を強化するなど貧血の方・結核性の方・病質神經過勞の方・妊産婦・弱い子達に用ひて最も適切優秀な効力を發揮します

中座・初春芝居



「霜夜鐘十字辻」

— 舞臺面三景 —

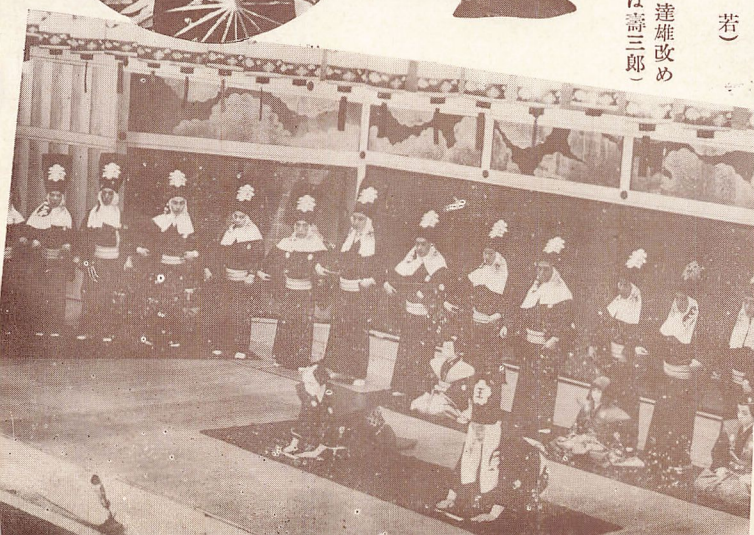
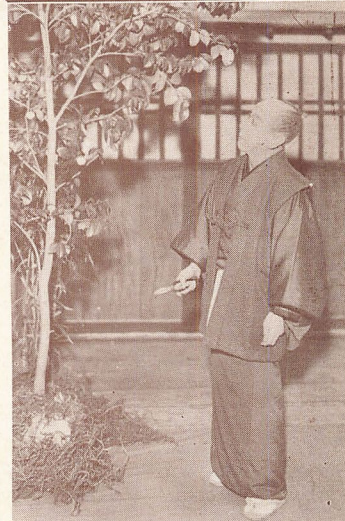


(車 魁)方の秋室後
(郎三長)助之女采

伊豫の内侍(芳子)
初花 姫
(千代磨改)
源之助
桂の朝臣(延三郎)

金藤次(延若)・隠居自牧庵(市藏)・將軍良門(延若)

源之助と共に襲名披露した達雄改め
市川右之助の襲名挨拶(右は壽三郎)



居芝春初・座中

春 賀



新国劇一團

浪花座 演出 大阪道頓堀

謹 賀 新 年

松竹 家 庭 劇

名 古 屋 御 園 座 出 演

監照裝文 露 替明置部	脚 本 部	小元森高	石浪御石二橋松千月小東	曾志會會會會會會會 我賀我我我我我我我 廻廻廻廻廻廻廻廻廻 家家家家家家家家家家	澁
山堀森村高大尾館茂 上部 源須崎 林 貞秀 登仁 田 寺 一雄 次三 想 直 文	織 安 田 桂 英 一 二 郎 豐 郎 亘	花室島條 榮種丘松 河 千 郁 愛 榮 鄉 康 照 澄 花 松 孝	十 淡 天 鐵 喜 時 文 京 十 左 通 天 之 久 吾 海 照 彌 鶴 彌 童 助 福 馬 天 外	谷	

各 種 印 刷

加 藤 印 刷 所

大 阪 市 東 區 鶴 橋 北 之 一 丁 目
電 話 天 王 寺 (77) 二 二 四 七 番

關西 唯一の
新 派 劇

梅	中	宮若富澤	和	淺瀧	都	笈田三松芳靜	堀畑小	藤子金泉寺吉
野		士	條					
井	田	村葉川	田間	榮	川中井岡賀川	波	山川子	田田
秀		み奈			聖瀧			
	正	松蘭満	久昇蓮	文	武一太	敏	正	若
		や美						寛光
男	造	江子恵子子子子子	男	夫郎郎寛兼馨	夫總朗	美信進作夫雄		

吉谷寫真製版所 銅凸版版

大阪東區大今里町七五九
電話(57)六八一五番

子弟愛の郎太柳己辰頭巨の劇國新

大友柳郎太

畫映演主回一第社入きしか輝

一キート都京

毒空浪士

初春の曉雲を突いて、榮光の新星大友柳郎太が颯爽たるデヴユウ！
物語は……
倭奸邪智の犠牲となつて國を追はれた明朗の美劍士が、思ひ出の姫君をたゞ幻に描いて日毎、酒！
酒！ 惑溺の生活の中から望む青空は……姫君危急と知るや
駈ける駈ける劍の嵐を衝いて！ 見よ彼が颯々たる斬奸正義の
劍！

大友柳郎太
山田五十鈴 新コンビ

梅村蓉子
千代田勝太郎
葛木香一
松本泰輔
舟波邦之介
伊吹草之助
原聖四郎
川崎猛夫
白石明子

原脚監督 原色影撮
山三押高
本室本橋
周戸七
五寛之武
郎二助則



新聞審判

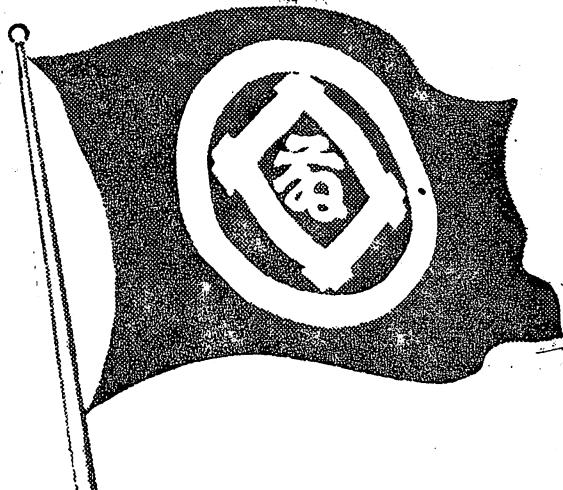
本紙新年號よ
りの「新計畫」



關西中央新聞は
大阪一の愉快な
明るい新聞です

毎夕六頁
講讀料一ヶ月
金五拾錢

新聞は勿論正確を期してその報道
批判等あらゆる健陣を誇るもので
ある、しかし早忽の間、或は觀點
の相違等に因を發して不識不知の間
に歪曲を取てなし遂げるといふ事實
を誰が否定出來やう。また近來の新聞
人の通弊としてセンセシヨナルに取
扱はんが爲め事件の容疑者が全然犯人視
される場合が往々にある、新聞人も神で
無い以上これら無意識的の過誤も
亦場合によつては寛容さるべきも
のであらう。だが一方から見れば
この許さるべき過誤のためにどれだ
け多くの事實が歪曲された儘となり
どれだけ多くの人々が世を暗くして
ゐるか判らない。こゝに想到する時
いはゆる「新聞の斬り捨て御免」なる
言葉の結果に慄然たるを覺えざるを得
ないのである。本社が敢然として本社編
輯局内に「新聞審判室」を開設した所以
はこれらの誤りを取て全部とは言はず、
出來得る限り是正し、正しき者の味方と
なつて世の中を明るくせんが爲めに外な
らないのである。



初春の青空高く

『良品廉價』の旗じるしは翻翻としてはためく。

多年の御愛顧に應ふべく今春三月には第二期増築工事完成を告げ、こゝに西日本随一の大百貨店として皆様の御用を十分に果し得る事になりました。何卒倍舊の御愛顧を願上げ奉ります。

昭和十二年元旦

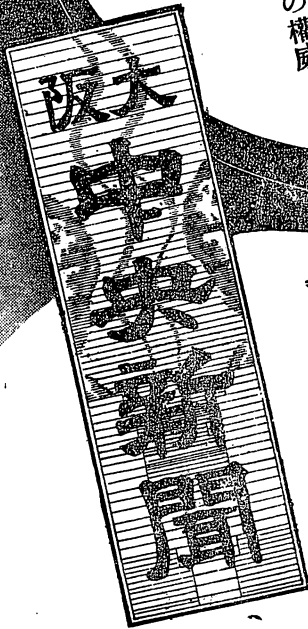


松坂屋

大阪日本橋



關西唯一の經濟新聞！
我が國證券市場の權威！



朗かな晝休みの好伴侶！
我國最初の晝刊新聞！

株式會社 大阪經濟新聞社

大阪・東區・北濱
電話代表北濱一〇〇番

日本工業新聞

新五年大附録

最新 第五七九年 工業年鑑

現代 日本財閥物語

工業家日用便覽

最新 工業經濟統計圖

讀者相談質問券



躍進に躍進を續くる

此の二條紙！

毎朝十二頁——工業界の指針

毎朝十二頁(圖)——工業界の指針

日本工業新聞

大阪新聞

大阪北區堂島濱通四丁目三番地
東京麴町區有樂町二丁目四番地

光りは東方より
非常時新聞
躍動！

錦城 米田誠夫經營



「筆陣堂々天下無敵」
「正戦勇闘易日本一」



大坂市東區北濱四丁目六番地

大正日日新聞社

番九四四一
 番八九一二
 番〇二八三
 番八〇三四
 番〇七二〇
 番六四四一
 番七四四一
 番八四四一

(23)濱北話電

躍進！
躍進！！

大時事新報

2597



松竹劇場
初春興行

るゐてし博を利勝大たままたまし戦轉に場劇竹松月今は伎舞歌手若の等夫太小雀扇
大脚飛戀”るせはもおを現再の郎治鴈父亡られそ、静と太權の雀扇に信忠の夫太小の”櫻千經義”眞寫
切印封の衛兵忠の”來往和



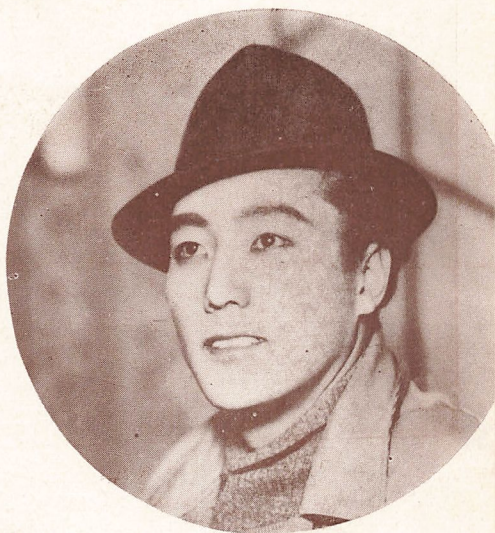
浪花座・新國劇

面 臺 舞 髮 〃 作文洋子金 (上)

〃 藤郎四と三草 〃 作果青山眞 (下)

三草の田島・衛兵彦の村野・藤郎四の巳辰





田島と巳辰の「章勳」作聲秋田徳（上）

面臺舞の「藏郎四と三草」（下）



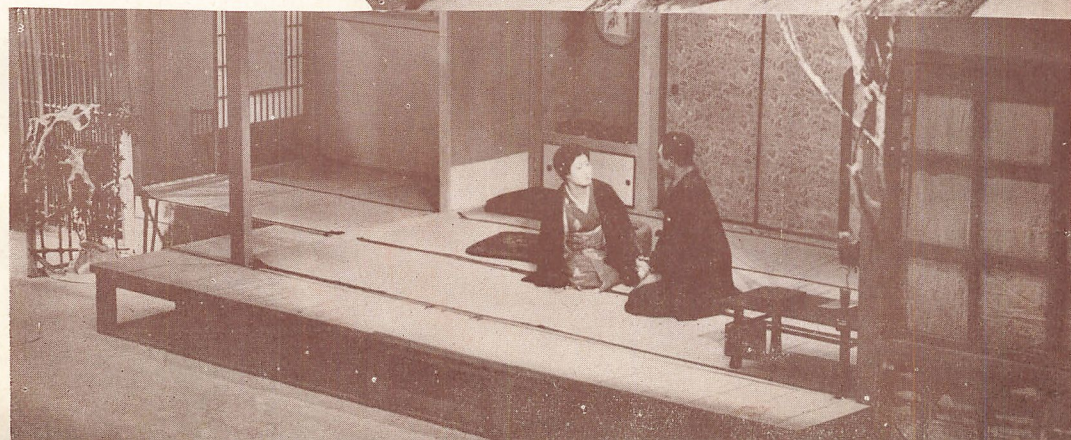
京都南座一月興行

井上水谷合同劇の

「バ、の青春」「熊の唄」

「女一代」の舞臺面

— (上より) —





代開新
錢貳部一
錢十五月一
錢五十稅郵

料告廣
圓壹行一欄通普
圓貳行一欄別特

所行發
濱北區東市阪大
地番七目丁四
社聞新日日阪大

濱北話電
1101・1102・1103
1104・1800・2600
70・71
用送發付受問夜
1101

賀 正

本誌が獨り夕刊新聞として覇を爲すに止まらず全日本の新聞界に於ても鬱然として一大王國の觀があるのは單に面白いからのみではない、讀めば必らず胸臆を震撼させずには居ない感激と正義の文字で紙面が盛上つて居るからである。人情風俗の活映畫。財界の波、商機の動きには正確の羅針盤、讀みたい新聞、讀まねばならぬ新聞、讀まずには居られなぬ新聞。……………

實益記事滿載！
趣味讀物充溢！



大阪市東區北濱二丁目卅一
電話北濱(23)五二六六番
五二六七番

錢貳金部一・頁四刊夕



本經社

創刊二十三年

大阪堂ル 工業製品展示場

優良品工業製品展示
商取引補助長機關

工業業者の相談及介紹
商取引の仲介斡旋
レントゲの検査

來館歡迎



工業界の最高指針

毎日十二頁
全工業網羅
購讀料 三ヶ月 金壹圓

月一回一日發行
每號十六頁
購讀料 三十錢



大阪中區・東京銀座

日刊工業新聞社

謹
賀
新
年



中
外
商
業
新
報
社
經
營

大
阪
北
濱

謹賀新年

◆不屈權勢、不媚富貴
 ◆議論公明、報道迅速
 ◆夕刊四頁發行



大阪市東區木野町三十一番地

發行所

大阪都新聞社

社長 南隅 勇

營業所 電話 南(75) 三一三五番
 編輯部 電話 天王寺(77) 三三六〇番
 電話 三一三五番

大阪今日新聞

◇ 唯一の日本主義新聞
 ◇ 堂々の筆陣痛快無比の新聞
 ◇ 明るく朗らかな新聞
 ◇ キビくどき持好き新聞
 ◇ 特種満載興味横溢の新聞

二春川笹 長社社聞新日今阪大
 八二目丁一洪北区東市阪大

四一〇五・三〇五〇六九四・〇二四決北話電

謹
賀
新
年

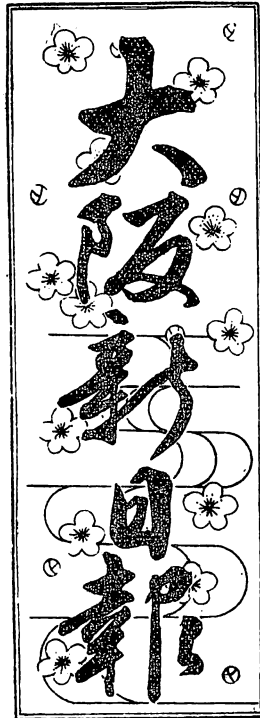


社 長 越 智 南 海

大 阪 市 北 區 空 心 町 一 丁 目
電 話 北 七 三 〇 一 番

支 店 東 京 ・ 神 戶 ・ 奈 良

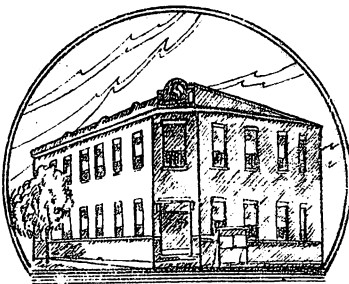
謹 賀 新 年



大阪が生んだ異彩ある夕刊新聞として堅實な歩みを續ける皆さまの大阪新日報は更新の活氣を全紙面に漲らせて一流の特色を發揮しつつ、夕刊群を壓して噴々の好評を博しつつある

◇大阪で一番面白い 特色のある新聞を……

ぜひ御愛讀下さい!!



發 行 所

大阪市此花區上福島南一丁目

大 阪 新 日 報 社

電話福島④ 260番 261番 262番

(價定)

郵 一 一

ヶ

税 月 部

十 五 二

五 十

錢 錢 錢

創刊 明治三十四年
號數 壹萬貳千貳百號



夕刊 四頁
定價 四十錢

京都市御池通河原町東入

電話 上
(四四七七八番)

百萬京都市民の意氣と情藻とにビ
ツタリ合つた新聞は唯一つ本紙あ
るだけです。本紙の廣告が頗る効
果的なのは其ためです。

大 阪 市 中 島



(通 電 稱 略)

大阪電報通信社

本社 日本 東京 銀座 通信 社

電 北

話 演

(三三)

五五五五五五五五五五
九九九九九九九九
九九九四三二一六五
一九九七六四三二一
三三九〇三三九一

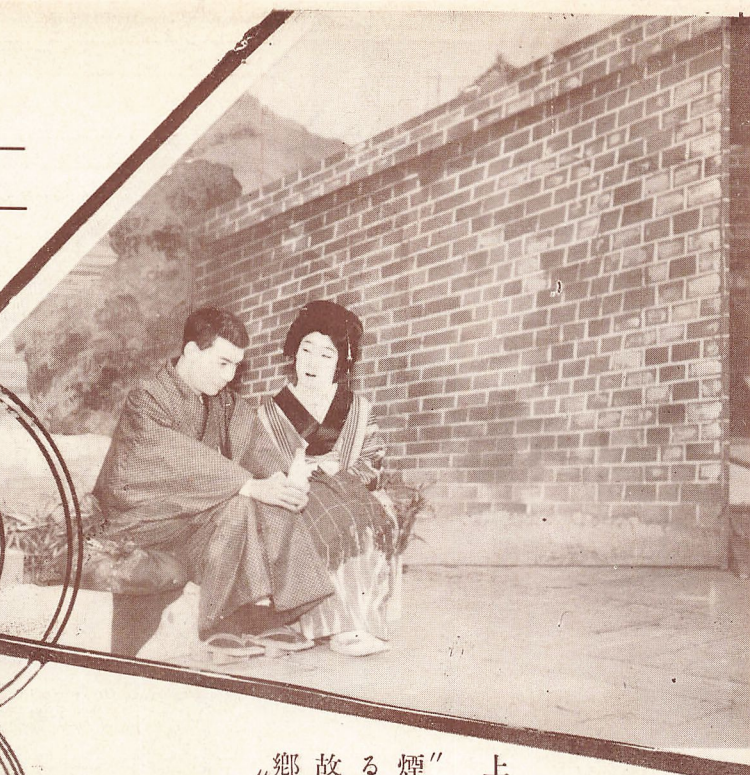
電

電通は廣告部を初め印刷部、寫眞部、製版部、意匠部、廣告統計部、事業部、總務部等の機械的及事務的機構を特設完備し内外の新聞は勿論雑誌廣告の代理取扱を爲し御用命に對しては最も便利に最も敏速に最も確實に最も有効に誠意と責任を持ちまして御引受致して居ります從來の通信部が社團法人同盟通信社となり營業部が日本電報通信社となり共に姉妹會社として並營以て世界的舞台に飛躍して居りますとも御含み下さいまして精々御利用の切ならんとを御願ひ致します。

通

製版 寫眞版、凸版、紙型
印刷 鉛版、活字鑄造
新聞、雜誌、商報
其他一般印刷
活動寫眞
文化、教育、宣傳、廣告
トーキ

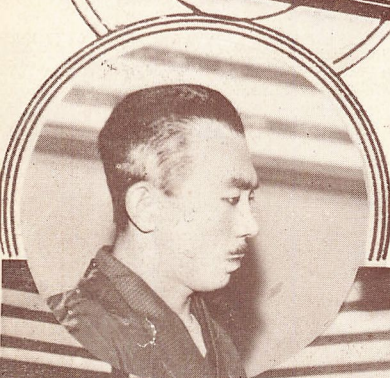
行興春初・座角



“郷 故 る 煙” 上

築 都 — 太龍村津
井之梅 — のそお

面 臺 臺 “く 描 に 闇” 下





T.S.S.K

豪華絢爛

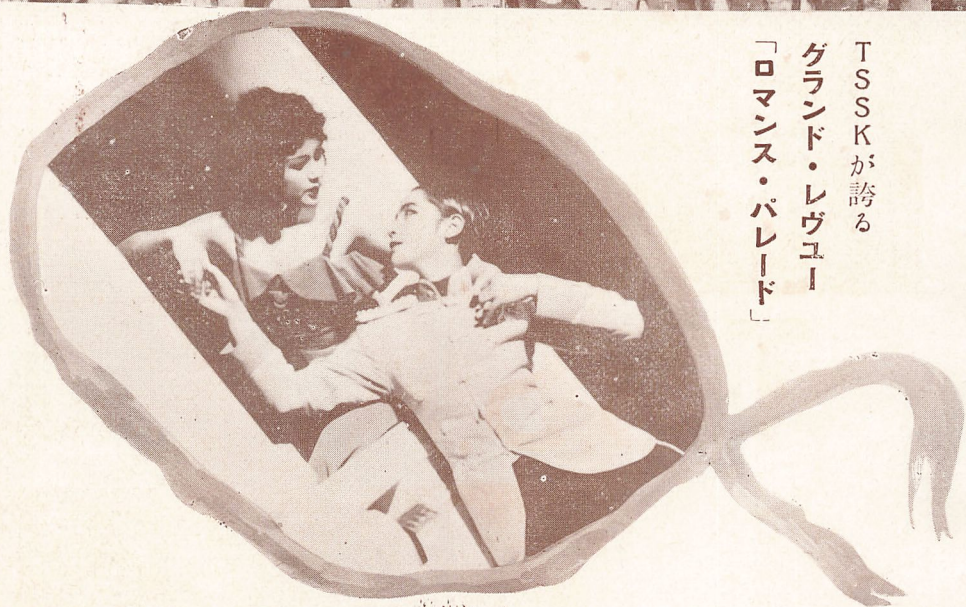
ターキー、オリエン他全員二百餘名が若さと
熱、明朗と潑刺の意氣で……

關西レヴューファンを席捲する大阪歌舞座一日公演





TSSKが誇る
グランド・レビュー
「ロマンス・パレード」



文樂座・初春興行

双蝶々曲輪日記
菅原傳授手摺鑑
三人片輪
三十三所觀音靈驗記





北村 仲子嬢

ガーデンボールのナンバ
ーワンの椅子は常に彼女の
占有です。……………

優秀な舞踏技術と明朗な
性格とはダンスファン氏の
太陽です。



新春大賣出し



自慢の百貨

- 地階 食料品・果實・花卉類
- 1階 菓子・煙草・藥品・商品券
- 2階 雜貨・時計及貴金屬
- 3階 吳服類・外商部
- 4階 雜貨・お子達用品
- 5階 大食堂・御家庭用品

營業時間

賣場 午前九時より午後九時迄
食堂 午前十一時より午後十時迄

無料配達

大阪全市及大軌沿線無料配達
吉野線參急沿線驛留無料配達

大軌百貨店

大阪上六 電話天王寺一三一三・三三三番

うまい
とんかつ
木の实

大阪戎橋電停南の辻西入

キネマの趣味品に定評ある

川ロキネマストアー

大阪 千日前

有名な洋酒肆

サントリー

ホットウイスキーは

サントリーに限る

道頓堀朝日座前

はに劇観御



芝居の切符はフレイガイ
ドでお求め下さいますの
が一番お徳で御座います
お場席もよろしいし一枚
の切符でもすぐお届けい
たしますことに團體にて
大ぜい様御觀劇の場合は
特にお安く相談いたしま
す。

フレイガイド觀劇會

月組新會員募集中

月額 金壹圓・也

詳細は當店へ

御一報次第フレイ

ガイド月報御粗呈

致します。

番 九〇三三 (23) 濱北
五九九三

階一ルビ日朝 橋邊渡阪大

を 用利御の ドイガイレス

賀 正

京都市堺町通三丁目

電本局(2)

長
 二二二
 一一一
 八八八
 五二一
 番番番

振替口座大阪一二八三八番

新聞廣告
火災保險

代理業

株式會社

萬年社京都支店

本店 大阪市高麗橋五丁目
 支店 東京市銀座一丁目

京都日日

斯界の明星!!

京都市烏丸通丸太町

京都日日新聞社

電話※三六・三七・三八・三九・四〇番
上局(長四八・四九・五〇番
振替貯金口座大阪二九〇二三番

謹賀新年

舊年中は格別の御愛顧を蒙り難有
本年も尙一層の御引立を奉希上候

新聞廣告業

株式會社

京華社

元星

本店 京都市三條通烏丸東入
東京市丸ノ内三菱廿一號館
支店 大阪市東區北濱四丁目
神戸市神戸區榮町五丁目

明治十二年創刊

朝夕刊八頁

日曜日夕刊八頁發行

賀正



染織日出

月拾五回發行
一ヶ月卅錢

本誌 朝夕刊 一ヶ月 金七拾錢
購讀料 夕刊ノミ 一ヶ月 金四拾錢

劇場建築専門並ニ
一般建築設計施工

池上建築工務所

事務所

東區京橋二丁目四八京阪ビル
電話 東七二三一番

自宅

市外布施町菱屋四二七番
電話 小坂五六八番

室内裝飾一般

本石川裝飾店

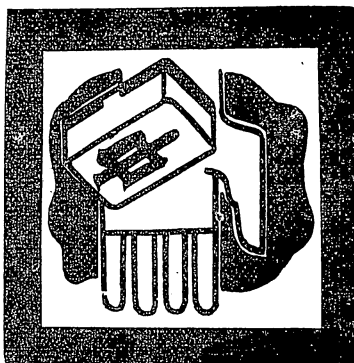
南海本線天下茶屋驛東通リ
電話 天ヲ茶屋 二三三五番

純喫茶

トロイメライ

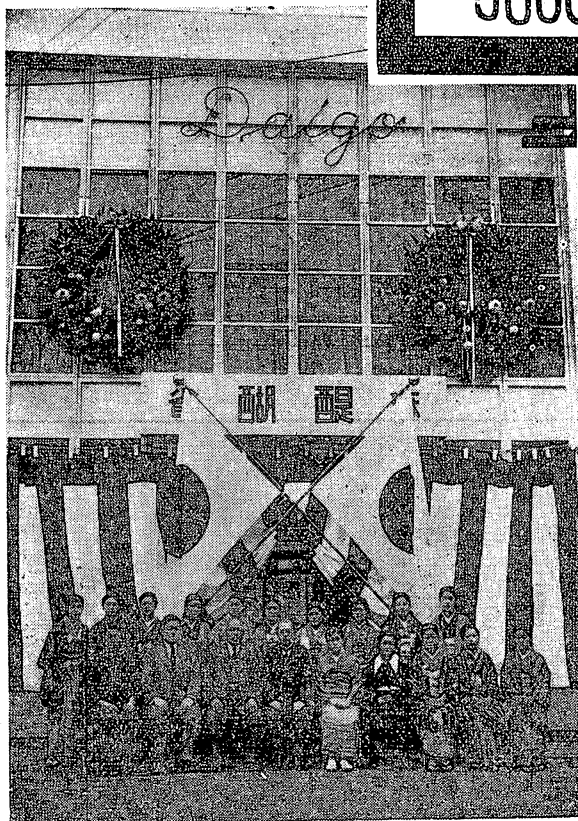
道頓堀角座西横
電話 南二一九三番

早朝九時開莊



キヤリアシステムの暖房

装置ありて極寒春の如し!!



紳士淑女の清興場として

感じのヨイ事眞に東洋第一!!

酩酊 雀麻

電南七〇四〇番

道頓堀辨天座東

第十二年

月刊・演劇研究・雑誌

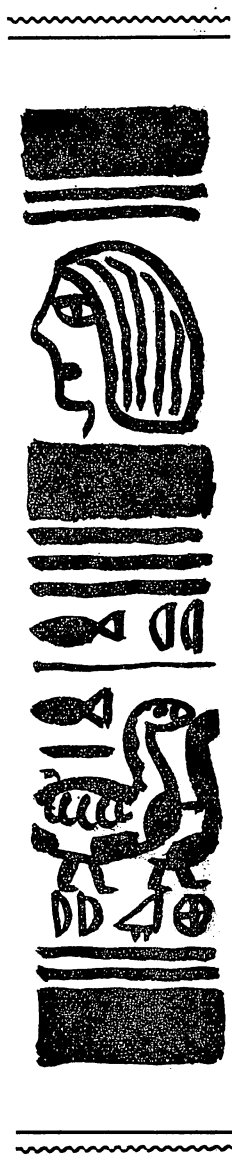
演劇研究

一月號

第二百二十四輯

地球は廻る、暦がまた一月一日から始まった。かうした季節的の繰返
しとは云へ、やはり新春を迎へると物皆新しい感慨に浸る事が出来る。
劇壇も今年こそはの新しい運行を續けるテープを切つたやうに、一齊に
初春興行の蓋をあけた。極彩色の櫓のぼり、街をおほふ小旗の陣、昔々
らの道頓堀情調には捨て難いものがある。が、何處となくその情調の中
に、吾々は次の時代の劇壇戦が暗示されてゐるのを感じる。大砲、機關
銃、焼夷弾など
が、どしどし製
造されつゝある
のぢやないか。
そして道頓堀こ
そ、劇界の西部
戦線になるのぢ
やないかと思は
れる。戦ひはこ
れからだの感が
今年ほど深いも
のではない。





商業演劇の

新らしき途

中井 駿 二

昭和十一年度におけるわが劇壇の最も特質的な出来事は商業演劇の目覺しき進展であつたといふことが出来る。

例へば井上正夫の所謂「

中間演劇」の提唱、勇敢に眞船疊の作品をとり上げた新派の進歩的な意圖、前進座の機むことのない努力、新國劇における「勸章」の野心的な上演。右圖次の自由劇再興の計畫、新喜劇を標榜する一派の注目すべき發展など、それとはすべてこれまで藝術的な意味においては全く低位に置かれてゐたと考へられる商業演劇が、何等かの貌においては舊套を脱し新しい生面を拓いて行かうとするよき意圖の現れてあつたと見ることが出来るのである。

この商業演劇の新しい動向の中にはわれわれ藝術文化批判者にとつて見逃し難い種々な問題が含まれてゐると考へられる。その中でも重要な二三の問題を考案することによつて、今後の商業演劇が當爲的にどの様な方向に進まなければならないかといふことを明らかにしたいと思ふ。元來、演劇藝術なるものは、その他の藝術ジャンル、例へば文字による文學、色彩的な形象による繪畫、樂譜記述の方法を持つ音楽等に比し

て遙かに多くの卑俗性を持つものである。といふのは、文學は印刷その他の方法によつてその藝術を永く保存することが出来るし、繪畫も又多くの年月に亘つてその鑑賞が可能であるのに反して演劇は一般のパフォーマンスの中にすべての鑑賞が行はれなければならないといふ不自由さを脱することが出来ないからである。前世紀フランスの怖るべき小説家スタンダールは、わが藝術は五十年後の讀者によつて初めて理解されるであらうと豪言したと傳へられてゐるが、演劇藝術にあつては、知己を五十年はおろか、十年後にも求めることは不可能である。尤も演劇の中でも文學としての戯曲のみはこれを後世に傳へることが出来るであらう。けれどもそれは文學として傳へられるのであつて、劇場藝術としての演劇全體は、その日その日のパフォーマンスによつて觀客の心を捉へる以外に方法はないのである。

このやうに演劇は、その訴へかける對象として、コンテンツボラリーに存在なる同時代者としての人々を觀客としなければならないといふ制約を持つ。こゝに演劇が避けることの出来ない卑俗性を帶同するといふ原因があるのである。何故かなら、同時代者としての觀衆は必ずしもその教養において、その情操において、その識見において、高級化されたものであるとは限られない。演劇の觀衆は何よりも先づアミーズメントを求めんとして劇場に蟄集する。その様な欲求を持つ觀衆に悉く満足せし

めんとするならば、それらの観衆の持つ智識乃至教養水準を全體の平均としての最大公約数的なものにまで引き下げた所に置かなければならぬ。小説の讀者はたゞ一人或は書齋において、或は爐邊に、或はまた車中に、靜に自己の意識の流れにつれ、自己の獨自の感情の發揚につれ小説を鑑賞することが出来るが、演劇の観衆は、多數のものが一堂の中に集合され、そこに生ずる一種の群集心理的な昇揚を行ふものである故、各自が持つ感情や意識のデリカシイは失はれて、平均化された水準の中に自己疎外されるのである。それが爲観客はそれぞれが一人である時よりも、卑俗化されるのは已むを得ないのである。

故に演劇がその最も高揚された貌で現れ得るのは、それぞれの時代の観客が一般的に高級の教養を持つ場合であつた。その様な場合は一國の國力が最高度に發揚され、一國の文化が、極度に高級化した場合、たとへば古代ギリシャの都市國家における、またルネサンス期におけるフランスの、かのコルネイユ、ラシヌ、モリエールの三大劇詩人を輩出せしめた時代、或は、イギリスにおけるシェイクスピアの時代等がそれである。

しかし現代の混亂したわが國の情勢は、典型のお貌における演劇を産出する程ファヴオラブルであることは考へ難い。社會的な情勢及び經濟的な條件の分裂無族所に従つて演劇も又様々な方向に分裂し、低水準に匍匐するの已むを得ない状態にあるのである。

かゝる時、能ふ限り多くの観客を呼び集め得た限りの観客に満足すべき娯樂を提供することをもつてその經濟的な成立の第一條件とする商業演劇が卑俗なる観客に迎合せんとする態度を探ることは當然であらう。そこでは藝術性は問題ではない。企業として成功するかどうか問題であるのである。利純を擧げ得るかどうかが、演劇當事者の腦裡に存在する唯一の意識であるといつてもいいのである。

だがしかし演劇の事業は、もともと單なる實業であつてはならない筈

であつた。一國の文化はその國の演劇の状態を見る事によつてその高下が測り知られる屢々云はれるやうに、一つの人間社會の持つ精神文化の一部門として、單なる巧利主義によつて支配することを許さない程高貴にして尊嚴なる事業である事が考へられなければならないのである。

そして又、これを藝術的方面から考へる時、典型的な時代の典型的な演劇にあつては、演劇の持つ藝術性が高ければ高い程、それは多くの人々の心を打ち感動せしめ、従つて多くの観客を集め得る事が出来たのであつた。そこでは藝術性と大衆性、従つて企業性が多くの矛盾を孕むことなく融合し得たのであつた。たゞ社會が經濟的に階級的に分裂し、一國の文化を指導する精神が失はれ、人々が高度の藝術を鑑賞するに足るだけの精神的な餘裕と教養とが欠如した時、藝術的な演劇とさうでない卑俗な演劇とに分裂したのであつた。

だから、現在の我國でも、過去の藝術的な傳統を確保せんとする歌舞伎劇と、低俗な民衆の爲めの商業演劇と、高度のそして新しき藝術性を目指す新劇とが分立してゐるのは當然であるといはねばならない。

さて以上のやうな演劇藝術の持つ基本的な諸條件と諸型態とを考慮におきつゝ現在の商業演劇の問題に遡つて考へて見よう。

最近において何故商業演劇が、漸次その卑俗性を脱却して藝術的な方向に進まうと意欲したのであるか、そしてその意圖は果して正しく實踐されてゐるであらうかといふ事が先づ問題となる。

嚮にもいつた様に、演劇は典型的な時代においては大衆性と共に藝術性が矛盾することなく普及し得るものであつた。否むしろ藝術的に優れてゐる故にこそ、多くの観客を集める事が出来たのであつたのである。ところで今我國で最も多くの観客を集め得てゐる歌舞伎劇は、その様式の完成性、俳優技術の固定化、そして観客の歌舞伎劇鑑賞についての若干の豫備的な智識並びに訓練が積まれてゐる事よりして今その動向について多くの問題とするに足る程の動きを見せてゐない故に、これを

問題の外に置かう。

問題は新派劇にある。

在來の新派劇は、歌舞伎劇に對立して現れたいはゞ「現代劇」としての意義を持つものであつた。尤もその成立の最初にあつては政治劇、壯士芝居としてそれがあつた政治的目的、即ち演劇の持つ宣傳性、煽動性を利用して二義的なものであつたとしてもその後、所謂新派三頭目の出現、及び優秀な新派劇の作者の擡頭によつて築かれたものは何よりも現代の人々に、コンテンポラリーの人々に訴へかけるもの、即ち、その内容のもつ革新性、從來の勸善懲惡ものや家騒動ものゝ持つ非現代性心中物のもつ感傷性を離れ、演技、臺詞、扮装、共に現代の様式により、現代人の現代的な感覺に迫るものとしての演劇であつたのである。だから、その劇中の人物は新派發生期及び興隆期たる明治中期より大正にかけての典型的な人物たる實業家、企業家、高利貸、軍人、大學生、令嬢及び尙その當時は藝者が社會の風俗的にも精神的にも、女性の美的様式の代表者であつたが故にかゝるものとして藝者が主人公とされてゐた。そして新派のもつイデオロギーはその限りに於いて優秀な作者と俳優とによつて一つの極限にまで到達し得たかの如くに考へられる。

しかし乍ら、それは極限に到達し得た時、その進展を停止してしまつた。嘗ては現代劇としての意味を持ち得た新派劇も、現在では固定したものととしてそれは過去に盡するものなり了つてゐる。明治大正期の風俗、習慣、生活様式、そしてその時代のモラルを表現し得てゐる新派劇も、現在では、われわれの感覺を觸發する何物も持つてゐない。舊世界感的な相も變らぬ客と藝者のやりとりや、何等ヒュマニテイの根底に觸れる事のない淺薄な社會的習俗と義理人情の葛藤や、テンポの遅々とした演技や、不自然な誇張や、凡そさうしたものは、現在のダイナミックな生活感情を持ち、階級的な認識と、資本主義體制の不合理と、智識の

無權威と、實生活の不自由を一通り體得しつゝ而も生きて行かなければならぬ苦惱に慄む現在の教養人に訴へかける何等の力をも持たない。新派がこのまゝで在るとき、その前途に横はるものは、没落の四穴でしかないであらう。

しかし、少くとも文化人としての自覺と、藝術家としての自覺を併せもつ演劇人であるならば、拱手してこの危機を看過することは不可能であらう。昨年度における商業演劇の新しい動向は、少くともかゝる思想の現れでなければならぬ。

井上正夫によつて提唱された中間演劇はこの危機に應へんとする一つの答案であつた事によつて意義を有つ。所謂中間演劇はその名の示す様に從來の新派的なものと、新劇的なものとを中間を行くもの、即ち、新派的なるものゝもつ非現代性を放棄しつゝ而もその熟練された技術をもつて、新劇の持つ藝術性、進歩性、従つて現代性を追求せんとするものであるらしく解せられる。そして井上自身の言葉によれば在來の二番目の持つ低俗さを藝術的に高めようとする意圖であるらしく、見受けられる。

だがこの事はそのまゝに容認するを得ない様々な疑問があるが、その第一は中間的なものとは畢竟するところ、あくまでも文字通り中間的な折衷的なものにとゞまるの外はないであらうといふことである。折衷的なものは如何なる場合においても革新的なそして指導的な立場に立つことは不可能である。折衷とは常に事態に對する彌縫策として採られる常套的な態度であつた。しかし乍ら、現在の情勢の下では、もとより井上一派に新しき商業演劇の規範になるが如き、指導性を求める事はむしろ無謀といはねばならないであらう。却つてわれわれはかゝる中間的なものでさへも現在においてはたとへそれが暫定的な意味に限られるとしても十分に意義を持ち得るものであることを考慮しなければならぬ。そ

して六十歳に近くして何等かの新生面を拓かんと努力する井上正夫に多くの敬意をさへ拂はなければならぬであらう。また新劇の立場よりしても、現在にあつては、その大衆化は極めて困難であり、大衆化がともすれば卑俗化に陥る多くの危険さへともなる情勢にある時、井上正夫らが一步新劇に接近せんとする事によつて、現代の人々を顧客として獲得する事が出来れば限定された意味においてもそれは成功といはればならないであらう。

けれどもその中間化の方法は果して正しく實踐されてゐるであらうか。昨年度において井上がとりあげたレペルトワールの中注目すべきものとして「蒼氓」「人生劇場」「斷層」「彦六大いに笑ふ」「武器なき人々」「熊の唄」「朱と緑」「新月抄」等が挙げられるが果してそれらは充分なる大衆性と共に、少くとも従來のものより高められた藝術性を持つてゐたであらうか。

その中「斷層」その他二篇を除いてあとはほとんど小説の脚色されたものであつた。「蒼氓」「人生劇場」共に小説としての高評を狙つて脚色上演されたものと考へるが、この様な態度は眞に演劇を前進させる爲にどれ程の寄與を果すことも出来たが甚だ疑問であると考へられる。演劇のもつ藝術性とは文學的なるものを演劇の中に持ち來らすことではなかつたし、またさうであつてはならない。演劇が眞に演劇として發展する爲には、演劇の持つ演劇性、即ちテアトラールなもの、前進がなければならぬのである。文學がどれ程多く演劇にとりいれられても、それはそのまゝでは演劇を高めるものとなる事は出来ない。中間演劇が現代に近つかうとする態度は正しい。しかしこの方法として多くジャーナリストイキな盛名を持つ小説もの、脚色といふ事が主要な方策であると考へるならば、それは明らかに誤りであり、演劇の貧困を曝露する以外の何物でもないのである。

も一つの商業演劇の持つ問題として新派の連中が眞船豊の「いたち」を上演した事が考へられる。この上演は各俳優の優れた努力にも拘らず失敗であつた。その原因は種々數へる事が出来るが、眞船氏のもつドラマツルギーは如何様に考へても大劇場的なものではない。それはむしろ創作座あたりの實驗室的な、そして徹底寫實的な演技方法によつてのみ成功する種類の、そして内容的にいつて殆んど清新さといふものをもたない作品なのである。これをとりあげた事が抑も當事者の不用意と考へられると同時に、新派の人とは自己の持つ演技様式がどの様なものであるかといふ事の自覺が尙足りないのではないだらうかと筆者は考へるのである。

新派の人々に限らず、一般に商業劇場の中にあつて、在來の新派劇の古典、又は新作を上演することによつてその演技を修練して來た人々は無意識の中に、所謂新派的なる演技様式を體得し、その中にある人々は既にそれが固定化したテクニクとなつて居り現在新しい戯曲を上演するとしても、新しい演技法を拜見するのではなく、自己が既に獲得した技術を極めてイージーゴーイングにそれにあてはめるに過ぎない状態にある人々が多いのである。

既に過去のなり了つた新派的な演技法が、新しい時代の生活感情をそのまゝに表現し得るものと考へることは少く自己を過重評價するものと云はねばならない。演技の基礎的な原理については本誌昨年度の十月號に論じた爲、こゝでは繰り返さないが、新しい生活感情の表現には自ら新しい藝術様式が発見創造されなければならないのである。この事について商業演劇にたづさはつてゐる俳優諸君は果してよく完全なる自覺を持つてゐるであらうか。訊きたい。

さて、與へられた紙数が盡きようとしてゐる。結論を急がう。嚮に述べた様に、商業演劇はいま、従來のまゝで居ては到底新しい時

代の人々を顧客として獲得することが不可能である事を知り、その方策として、中間演劇、新劇的演出、新劇的作家の起用等がなされる氣運に立ち向ひつゝあるのであるが、この場合新劇が大劇場に吸収されつゝあるといふ事は新劇にとつてそれは一つの勝利の證左であるとも考へられであらう。しかし、それによつて新劇はその存在の意義を失つて解消してしまふ運命にあるのではない。新劇運動はつれに一步前に立つことゝの永久に實驗的な且革新的な試みてなければならぬのである。從來の新劇はその果し得た成果を持つて商業演劇の中に吸収されるであらう。そしてその事は正しい。しかし新しい演劇の革新運動は絶えず一般的なるものゝ前衛として続けられなければならない。そこに永久に新劇が新劇としての持つ意義があるのであり、そしてまた商業演劇はまた自己を高めるための手段として新劇がなし得た成果を吸収攝取しなければならぬのである。

ところでこゝで問題になるのは新劇のもつ藝術性がそのまゝに商業演劇のもつ藝術性に移行し得るものではないといふ事である。

繰り返していふ様に商業演劇は大劇場的な藝術様式の上に立つてゐる。そして文學的な要素よりも必然的に演劇的な要素が重視されてゐる。けれども現在の新劇のもつ藝術性はそれが演劇的であるよりもむしろ文學的である事によつて高いものと考へられてゐるのである。故に心理劇ともいふべきジャンルに盡すものが藝術的であると考へられ、多くの場合演劇的なものは蔑視されてゐたといふ事が出来るのである。それ故に意識的にか或は無意識的にか、商業演劇が藝術的なものに接近しようとする場合、多く文學的なものに接近しようとする態度として現れてゐる。それはいま井上の中間演劇について述べた繪にも指適した通りである。

しかし現在の世界の演劇の動きはそのやうな文學的な要素を斥け、演

劇的なものに立ち還らうとしてゐる傾向にある。即ちセリフの持つイメージのみを重視する靜的なものよりも、ハンドルク（所作）を重視するテアトラルな様式の再發見に向ひつゝあるのである。このことは商業演劇の當事者にとつては充分なる考察に價する重要性を持つと筆者は考へる。

幸にも、商業演劇の當事者達は從來、演技法その他の藝術様式をテアトラルなものゝ線に沿つて進めて來たものと思はれる。この成果は全く讃歎すべきまでに優れたものと云つても差支へないであらう。勿論それがそのまゝに新しい時代の表現様式になるものではないとは嚮けつゝいたが、その基本的な線は重要であり、且有用であるのである。この線にそつて文學的なものに迷はれることなく演劇的な新しき様式の發見がなされるならば、商業演劇はその大衆性を失ふことなくして、新しき時代の新しき演劇となる事が可能であらう。

いま商業演劇に課せられてゐる課題は、商業演劇が「現代劇」としての意義を失つてゐる故、これを如何にして再び現代の人々、新しきジェネレーションに盡する人々の爲のものとするかといふ事、それが爲には「現實に近づかんとする態度」が何よりも重要であるといふ事及びその現實に近づかんとする方法は如何なるものであるかといふ事を發見すること、と同時に從來の獲得した演劇様式を如何なる貌において新しき商業演劇の演技法とするかといふこと、そのために大衆性を失ふことなく藝術性を獲得するためには如何なる方策がとられなければならないかといふことに要約されると考へられる。

そしてそのことは新しき商業演劇における戯曲の問題、俳優の演技の問題、観客層の問題、各劇團の特質の問題等多くの具體的に論すべきものを含んでゐるが、こゝでは詳論の餘裕を持たない故、他日筆を新たにして論述することを約さう。——（一九三七年一月大阪にて）——



大阪歌舞伎 に望む

富田泰彦

大阪劇場の動向には、何んと云つても一番に關心の持たれるのは大阪歌舞伎です。鴈治郎と云ふ一代の巨星が、殞ちて一時は何うなるかとさへ、好劇家に取つては、可成り強いショックを受けた傷心のうちに、こゝ一兩年間は見まもられて来たものですが、もう今日では行くべき處へ、落ちつく處へ、それ／＼納つて終つたやうな氣がいたします。この上は郷土藝術を支援すると云ふ大阪人に、若しそれだけの温い心があるならば充分に芽まれもし、又、培はれて行くのではないでせうか――。

併し、歌舞伎そのものゝ、本質的な色彩ある生命力と申しませうか、魅力ある同化力と申しませうか、兎に角大衆を牽きつけて行く上に、働きかける或るものが、餘程稀薄になつて来たことは否まれませんが、それはもう惜み、憐みても、到底再び復つて来ない――たゞ春や昔の華やかな夢か、幻かにすぎないのです。「歌舞伎はわからない」と云ふ聲が日一日と多くなつて来るのも、所詮は時代の力でせうし。一方には「近頃の芝居が面白くない」と云ふ不平を聞くのも、また止むを得ない舞臺現象なのです。

一般大衆的には、難解な藝術とされ、傳統精神を猶なつかしむ、一部の歌舞伎通からは、兎角粗雑に流れがちな俳優の演技を嫌らすとするのも、尤もなことです。この兩極端の間に、狹まつて喘ぎもつかぬ焦燥をつゞけることは、今の歌舞伎道の盛衰を運命つける苦惱なのです。興行者にしても、俳優にしても、また劇作家にしても、これらの問題に關する限り既に今日まで、種々検討もされ、慎重な打開策をも講じられては來ましたが、それは傳統藝術としての根本精神――即ち歌舞伎の機構を根底から破壊して終はねばならぬ話で、到底それらは今の場合机上の空論に等しい實現性のないものと考へねばなりません。だから今日ではさうした野暮な理想論は、一顧の價値もなくなりました。

其處で私は、大阪歌舞伎の將來の爲めに、祈るものは、たゞ俳優諸氏の協力一致と云ふことであり、幸ひに、白井前會

長の如く、彼の不出世の名優鴈治郎の一生を、あれほどに光輝あらしめた、好き指導者の嚴存さるゝ以上、誰か第二の第三の鴈治郎たり得じとは、斷言出来るでせうか、此點、刻下の大坂歌舞伎には、何よりの力強いことではないでせうか、實際世間からも、次の天下を把握する處の名優——否名優と許すべき人々は既にありはあるが——もつと大きな迫力を持つた、英雄的名優の出現を翹望するものです。



私は、舊臘京の顔見世を見て、泌々と思ひました。今日の大坂俳優の中堅たる人々と、東京のソレとを比較して見ても、その技藝の上には決して劣つてゐないと云ふことです。しかし一致協力と申しませうか、舞臺上の交情とでも云ふべきものに、教へられるものはありはしませんでせうか、若し仁左衛門が、大坂俳優のみで、しかも彼れほどの幹部級の粒が揃つた一座として、その襲名狂言に

「大和橋」を選ぶとすれば、可成りな困難が伴ふのみか、扱て上演出来たとしても、恐らくあれだけの捕方その他に、顔を集めることは不可能ではなかつたでせうか、私はたゞこの一場に於て、演技以上の、この情誼と云つたものに、美しさに感激の胸が打たれ、「さすがに東京劇場の榮え行く道は、こゝだな」と肯づかせたものです。



この精神、この情誼をもそのまゝ大坂俳優衆の舞臺にも、移すならば、もつと面白い狂言、もつと稀らしい配役、もつと緊張した演技が、和やかな雰囲気の中に、見物出来るのではないでせうか。所謂「打てば響く——」と云つたことそのまゝ、いつの場合でも舞臺上の感情は、たゞちに觀衆の胸にも反響することは、知れきつた話であります。従來舞臺の案莫きとか、俳優の呼吸の合はないとか云ふ、滿されぬ間隙の生ずる原因は即ちここににあるものと斷じたいのです。

十 人 十 色

松竹下鴨 坂東橘之助

(イ) 吳服小間物屋

(ロ) 純日本風の人(例へば八百屋お七の様な)

(ハ) 百米(身體は小さいが百米なら自信あり)

(ニ) 一萬兩位なら製作費にも足りませんから遊びの方へ使ひます人に知られてゐない神秘的な温泉地へ別宅を建てる仕事そして静かにめいさうにふける。

(ホ) 大船の「家族會議」「お夏清十郎」、洋畫では「春の調べ」等。

汐見 洋

(イ) 連ツ子のかなしき、お袋は元の亭主の事は明さない、先代の音羽屋よりきれいだつたと言つてゐる。

(ロ) 粹で、モダンで、アクの抜けた女、猿肢の取換に氣がつけばよい。

(ハ) 戀の高跳び。

(ニ) つまらねえことを言ふな、口惜しかつたら出して御覽。

(ホ) 戦争、ギャングの映畫、お客になつて觀られる。

松竹家庭劇 松榮 澄子
生れた當時商賣はしてをりません。



兎に角、延若、梅玉、魁車、壽三郎等々の諸優が、中心となつて何かな大坂色を發揮せしめて欲しいのです。又、興味ある配役として、人々の意表に出づるものが望みたい。たとへば梅玉氏が、老役に成功したことも、その當初に於ては一つの冒險ではなかつたでせうか、女形としての梅玉の過去の足跡が、餘りにハツキリと美しく印象づけられるほどの立派な藝を持つてゐたのに拘らず、いつかの水戸黄門や、『盛綱』の微妙などに、堂々たる貫録を示してゐる如く、私は魁車氏の『寺子屋』の源藏や『河庄』の孫右衛門を見たい。延若氏の『法界坊』なども、充分の興行價值があらうとも思ひます。壽三郎氏の『實盛』や『逆櫓』の松右衛門なども悪くはないでせう、それとも壽三郎中心の新劇團を組織すること、今日の場合、既に早いことはないやうな氣がいたします。勿論、一方には扇

雀小太夫兩氏らを中心とした花形歌舞伎の生長にも、多大の希望を繋いでゐるものです。幾度も云へる如く、是非この手頃の劇團の爲めの、道場とも見做すべき常打興行の出来る劇場を提供して欲しいものです。



新春劈頭から聊か苦言めく註文ですが要するに江湖の好劇家諸君と俱共に、今年こそは、より好き芝居を見せて貰へるであらうことを、心切かに期待して、この愚辭をつらねた所以です。

十 人 十 色

質 問 種
(イ)父は坂田藤十郎と申される向もございませうが、あなたが生れた當時の御生家の御商賣は？
(ロ)あなたに配遇の有無は問はずお好のタイプは？
(ハ)オリムピック大會に出場を乞ふ、希望種目は？
(ニ)ちよつと一万圓おくり度し、御用途を？
(ホ)お好きな芝居と映畫の題名？

十 人 十 色

- (ロ) スポーツマンタイプが好きです。
- (ハ) 五十米競走、理由は少し位しか走られませんが。
- (ニ) 郊外へ両親の住む隠居所をこしらへます。
- (ホ) 『ベンガルの槍騎兵』『愛の花籠』新國劇の『海の兄弟』

松竹家庭劇 千種 花子

- (イ) 玉笑屋
- (ロ) 林長二郎形
- (ハ) リレー。走る自信が多分にあります
- (ニ) 遊びに使ひます。
- (ホ) 『夢見る唇』『雪之面變化』『彼のとらへし女』

文樂座 豊澤 廣助

- (イ) ちぎ、ます、はかりを賣つてゐました
- (ロ) 近代的な方
- (ハ) 水泳
- (ニ) 借金なしをして、あとを寄附します
- (ホ) 『修善寺物語』『十万堂の秋』映畫では『香掛時次郎』テムブルちゃん出演ものすべて。

OSSK 衣笠 桃代

- (イ) ダンスやさんなんです。だからダンスが好きになつたんですわね。

第五回目の廻り年

鴈三回忌追善興行

白井松次郎

新春の御慶、恭しく申述べます、私に

とつては本年は第五回目の廻り年を迎え

ました譯で微力ながら一層本年はよいお

芝居や映畫を皆様に見て頂き度い念願で

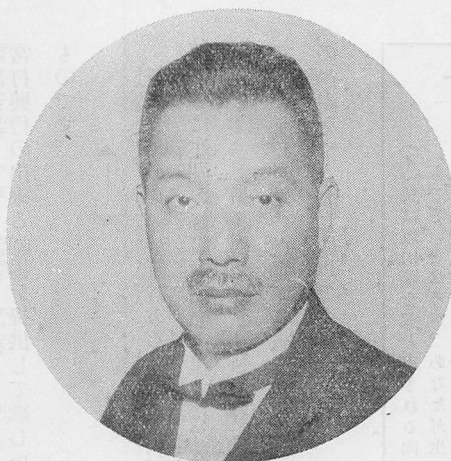
松竹關係の各方面へその旨督勵して居る

次第です、芝居と申しますとこの二月は

大阪の生んだ名優中村鴈治郎の三回忌追

善興行を盛大に開演して不世出の劇聖を追慕すると共

にこれからの關西歌舞伎の動向を見極めたいと存じま



して、その準備にかゝ

つて居りますが、鴈治

郎は關西の皆様には特

に御寵遇を受けた俳優

ですから其の節の御後

援をぜひお願い申して

置きます、それから本

年も亦興行界は非常に

多端と存じますが、總

てよくなつて行く動き

に他ならぬものと考へ

て居ります、鴈追善興行のお約束を謹んで年頭の言

葉とさせて頂きます。



新興に傾けた努力五年

今ぞ仰ぐ麗朗の春

新興キネマ社長
松竹興行専務取締役

白井信太郎

新春の祝詞を申述べるに際し、我が新興キネマ五年の苦闘を顧みる私の心境は、混然と積み上げられた丸太の足場が一本づゝ取り除かれて偉容を誇る高層ビルが日一日と明粧をあらはす姿を中空に仰ぎみる感であります。五ヶ年の工事擔當者が相當の努力を拂ひ乍ら遅々として酬ひられざりしは何故かを思ひみる時、抽象的な一語ながら、矛盾の上に拂はれた努力に歸するものではないでせうか。勿論長所もあつたが、また反面に大きな短所もあつたでせう。その短所の一片をとりあげるなれば、獨立プロ映畫制も數へられるでせう。また事業の對照會社を潰滅すべく工作された無理な競争による失費も原因であつたでせう。最早やそれらの短所も一陽來福の輝く昭和十二年のはつ日と共に一掃されて



劇藝術の興振をうながし得ば幸甚と存じ、この點にも本年は相當の努力を致したい覺悟を申しそへて年頭の辭にかへたいと存じます。

いまはたゞ凡てが新しき『新興ビル』の建物と共に、そこに働らくすべての人が、燃ゆるが如き熱意をもつて事務開始にうつり、眞剣にしてわが社獨特の色彩を有つ優れた映畫をフアン諸氏の前へ送るべく全精神をこれに傾倒してゐます。また私が新興社長に就任したに際し、持論である歌舞伎映畫の製作にも着手したい念願であります。やゝともすれば大衆から後退するが如くいはれてゐる歌舞伎劇の妙味を映畫化によつて大衆に再吟味をうながし、日本固有の演



後加の縁



扇雀と新作

菱田 正男

『扇雀に新作をやらせたい』……………

といふ聲は随分むかし喧ましく言はれたことだったが、鴈治郎の在世中にはク親父寫しクの所謂玩辭樓十二曲物ばかりやらされ『中ぼんはお父さんをつくりや』など、取巻き連からワイ／＼持て囃されて扇雀自身も可成り揶つたかつたに違ひない、だが、それが賣物であつた時代はたしかにあつた、そのみならず、いまでも扇雀が演る鴈治郎の當り藝には隨喜鴈仰の涙を流すヒイキも相當ある。

鴈治郎の歿くなつた當時、扇雀に鴈治郎の襲名説まで傳はつた、兄長三郎より

もウンと數多く鴈治郎物をやり、臺詞、所作に故人とよく似た扇雀にこの噂の出るのは決して不思議ではないわけだが、所詮鴈治郎は鴈治郎であり、扇雀はやはり扇雀である、亡父ゆづりの狂言を演つたつて、決して鴈治郎よりすべての場合絶對巧いとはいへない、たゞ似てゐるが故に興行上の賣物にこそなれ、藝の巧拙は自から問題は別である、そこに扇雀自身が周囲の毀譽褒貶に心を痛めねばならなかつたのは事實であらう。『いつまでも親父の物ばかり演りたいことあらしめへん、もつと新作物がやりとうおます』とは扇雀君自身が屢々筆者に語つたところである。

だが仕打側にすれば、扇雀になまじい新作物をやらせてヘンなことになるよりは、鴈治郎畑のものをやらせておく方が安全だ』などの消極的な方針があつたのではなからうか、だがこの意見の喰ひちがひに少なからず興味を持つた好劇家は、

色 十 人 十

- (口) 只今研究中です。近く發表の豫定。
 - (ハ) 一〇〇米(子役の部)だつたら必ず一等よ。賞品は何にを下さるか知らず。
 - (ニ) 本當? まア嬉しいワ、私至つて心臓が弱んで貰つたとたんに氣絶してしまふから駄目よ。
 - (ホ) 『或る夜の出来事』『サンフランシスコ』ゲーブルものならなんでも。
- 村田 正雄
- (イ) 父が歐洲へ留學中に出生したので父子相見へすです。
 - (ロ) 利巧で馬鹿で、勝手に従順で、明朗さがあつて、經濟が旨くつて美人で……あゝくたびれました。
 - (ハ) 棒高跳、(走高跳世界記録確實です何しろ亦どし生れですからね)
 - (三) 折角一萬圓の原稿料を頂戴しても是ればかりでは借金が片附きません。御返し致します、然るべく御處分願ひます。
 - (ホ) 芝居、映画を問はず喜劇が好きです
- O S S K 人見 洋子
- (イ) さア何商賣したか、ママがお梃様でなかつただけは確實です。
 - (ロ) ロバート・テイラーみたいで上原謙みたいで浩ちやんみたいな方。

その成行を必らずや見てゐたに違ひない
我當、勘彌らのク東京青年歌舞伎クの
群に入つて成太郎と共に腕を研いで歸阪
した扇雀は、多年の野望を一舉に滿たす
べく、松竹側と折衝の末小太夫と組んで
『東西若手歌舞伎』の看板の下に立ち直
つた、松竹側もク鴈治郎歿後の今日、い
つまでも鴈治郎の夢を追はさす、いつそ
思ひ切つて新作を演らせやう々との考へ
から、こゝに、扇雀待望の新作への邁進
がはじまつた。

劈頭に現はれたのは九月大阪浪花座で
の鈴木泉三郎氏作の『生きてゐる小平次』
である、これは一昨年秋季京都南座で我當
勘彌、鶴之助のトリオが上演して相當問
題を起したもので、當時一座してゐた扇
雀がこれを見て『是非いつかは自分も演
つて見やう』と考へてゐただけに敢然こ
れを上演した。つき合つたのは新興座と
の合同劇以來のイキの合つた小太夫であ
る、も一人は六代目の女房役として新た

に拔擢され、いま勉強盛りの菊次郎であ
る、このトリオによるこの問題作は果然
センサーションを捲き起した、好劇家は
見直すし、一般のヒイキも驚ろいた——
かくて好評のうちに扇雀は小平次で萬丈
の氣を吐いた、同時に上演の『宮本武藏』
の澤庵も上出来だつた、この二作での
從來の扇雀物から漸やく脱することを得
た彼は十月の神戸松竹劇場と京都南座で
鳥江鐵也氏の『堅氣街道』をとりあげ、
更に京都ではこれへ下加茂のスター飯塚
敏子と組んで現代劇『忘れてゐた素顔』
を上演した、前者は小太夫、扇雀、成太
郎のトリオで、作と俳優がガツツリ組ん
で非常な評判となつた、勿論『忘れてゐ
た素顔』も受けた、かくて扇雀の野望は
次々と遂げられ、十一月の浪花座では十
月の東京で菊、吉が見せた宇野信夫作『
雪地獄』を小太夫とモノして劇界の巨頭
連の圓熟せる至藝に對し、新人の發洩た
る舞臺を見せて、當るべからざる意氣を

十 人 色

(ハ) 天井のすゝ拂ひ競争、妾五尺三寸ち
よつとありますのよ。

(ニ) 一萬圓戴いたら、あなたに半分差上
げますワ。年末ですものね。

(ホ) さア妾がすきだつたかしら。

關西新派 笈川 武夫

(イ) 和洋糸組物業。店一ヶに工場二ヶと
いふ小ブルジョア。但し年ならずして没
落して小市民と化する。

(ロ) 勿體ない。私のやうなものは誰方
でも結構——。但し大柄でなく肉付き宜
く、愛苦しくて(美人の意にあらず、十
人並以下の方をむしろ喜ぶ)和装しては
淑やかなる日本の女になり、服を着ては
明朗なる女性となる位の頭の良さを持ち
(とは云へ何れもその程度を越えざるひ
と)理渡にして人目は馬鹿で一見冷靜な
るも内に奔る情熱をたゝえ、ア、切りが
ない。

(ハ) 一、變裝競技しメイキャップ勉強の
ため。二、唱歌齊唱しての位のことは集
團的統一が出来るでせう。三、ニラメツ
コ——表情研究のため。四、瀾り分裂式

示した、ひきつゞいて十二月の浪花座では、亡父の當り藝中いまだ手がけなかつた菊池寛氏作の『藤十郎の戀』をとりあげ、亡父が女形のお梶で演じたのより一歩進めて女優村田嘉久子のお梶で好演してこれ亦相當問題となつた、もつともその出來榮へは鷹治郎の幻影のまだ忘れ得ない人々の評では、も一つだつたが、これをとにかくモノにしたのは偉とすべきだ、こうした破竹の勢ひで新作を克服して行く扇雀の近狀こそわれが、多年待ちに待つてゐたものである、むしろおそきに失するとさへいひづくなる位だ所謂『いまからでも遅くない』の流行語そつくりの立場にある扇雀の今後の奮闘にウンと期待をかけてゐる。

と同時に幾人かの扇雀フアンの望みを満たすためには鷹治郎ものを演つてゆくことは賢明であり、興行政策上からも必要なことだ、その意味で十一月の浪花座の盛綱などいふと思ふ、だが必らず

一本の新作は演ることを夢忘れてはならない。

歌舞伎の滅亡といふことはいましばらく信ぜられないが、新作に新しい藝域を開拓して行くことは絶対必要だ、そしていつでも精進を忘れず、時代の推移と共によき舞臺人としてあつてほしいと希つてゐる。

懸賞

面白い懸賞を本月號より募集致します。

とし／＼御應募下さいませ

(詳細は六十頁を御覽下さい)

十 人 十 色

— 役者としての度胸を作るため。五、組券早くばり競争 — お客さんを澤山つくるため。

(三) 貴方によります。

(ホ) 芝居(外國)『シラノド・ベルデュラツク』『櫻の國』『どん底』。(日本)『修善寺物語』『三社祭』『舟虫の唄』——これは岸井良緒作、小生出演だからよい。映画(外國)『キーン』『モロツコ』『トゥバハット』『隊長フリーバ』。(日本)『新撰組』『興亡史』『朝の並木路』

T S S K 秋山伊代子

(イ) 鍛冶屋です。森の中の一つ家。小鳥のバンソウでのどかな森のかじやでした(ロ) その時になつて見なければ分りませんが、これと申上げれば『ロバート・ドシナツト』のやうな男性を好みます。

(ハ) 水泳。海の子ですが、鯨と競泳して負けた記録があります。

(ニ) 第一に自分で好きな家を建てます。

(ホ) 『テキサス決死隊』『罪と罰』『禁男の家』

沈着にして温順、しかも剛毅に見ゆる牛の逞しさは少年の眼にも懐しいものに映ります、丑歳——劇界でこの干支に當る巨

人に努力の人松竹の白井松次郎氏があります、俳優では中村歌

右衛門、片岡我十（慶應元年生）實川延

若、曾我廼家五郎、河合武雄、畑中蓼坡

（明治十年生）市川荒次郎、澤村長十郎

中村歌扇、阪東彌三郎、松本大七、大谷

紫若、藤村秀夫、村田式部、武村新、加

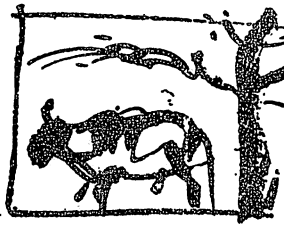
藤精一、吉田尊作、米津左喜子（明治二

十二年生）澤村田之助、中村翫右衛門、井志井寛、雄島三之助

曾我廼家蝶太郎、東愛子（明治三十四年生）尾上松緑、中村又

五郎、實川實三郎、實川美鷹、市川紅梅（大正二年生）等多士

と優俳の歳り廻



言狂む因に支干

濟々です。又流石にものだけがものだけ丑年に因む狂言は多いです
が、先づ『菅原』の車引き、太宰府配所の場、『市原野』の鬼

童丸、新しいものに落合浪雄氏作『牛盗人』中村吉藏氏作『牛

と闘ふ男』家庭劇の『角笛』などがあり

ますが、霞亭氏作『青松葉』に丑刻参り

が出るのがありますが、これはどうも

——思ふ方には馬子の丑五郎などは如何

でせう。



(イ) 俳優です。

市川 紅梅

(ロ) 戀の相手ですか。さアれ云はぬが花

つて事がありますかられ。

(ハ) 女相撲は如何？

(ニ) 頂いてから考へてみます。

(ホ) 『三筋道』『婦系圖』映畫では『ゼロ



新年張切録

曾我廼家五郎

丑歳生れの私は今年で丁度還暦に當る

六十年の歳月は長い様で短かくもあり短かい様で長くもあつた。仕事の上では短かい六十年であつたがその努力苦心の點では長い六十年であつた。

私は日本演劇界に喜劇の文字を創始した。そして一トつの喜劇形式を残したに止る、喜劇の完成はこれからであるとすれば老後なば大海を渡るが如き想ひがある。

一國一個人にとつて今年位緊張した新年は珍らしからう。スペインの動亂から

支那の内亂に及ぶ風雲急を孕んで各國待機の姿勢を取つてゐる一九三七年の非常時局は正に落ちなんとする氷の刃の様にトンガラがつてゐる。

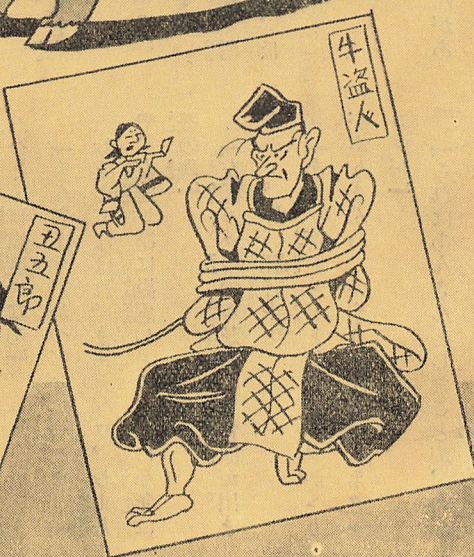
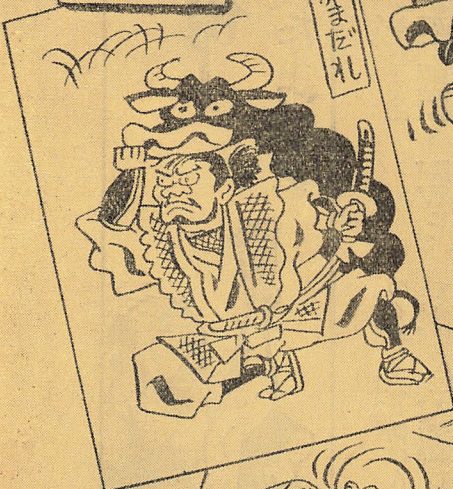
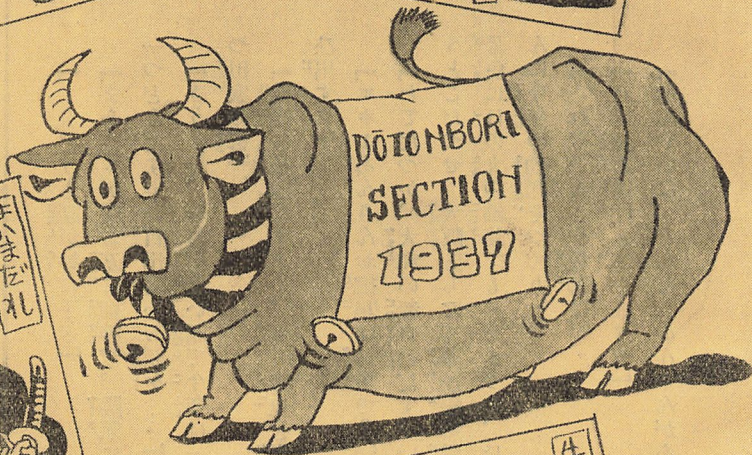
即ち眼を外に轉じ又内に振り返る時國民の一人として我人共に爲さねばならぬ各自の道があるであらう。

演劇報國を思ふ時五郎劇が喜劇としての如何なる欠點を指さされてもいゝ。宣傳班或は東西屋になり下つてもいゝのである。

演劇の大衆に與へる力は大い。この大きい力によつて五郎劇は演劇報國の一念に進み併せて大衆娛樂となり得るならば以つて冥す可しと信じてゐる。

新春張切る事かくの如し。

どうとんぼり・せくじょん





漫才

丑五郎

大概なつてお



『明けましてお目出度う』

『イヨ、舊年中は何かと、何卒本年も不相變……』

『その通り』

『ナニツ、俺が、一體全體舊年中何厄介かけた？ いやさどんな御迷惑をおかけしましたか』

『これは、異なこと、新春早々あんさんのお言葉に反對するのとも思つてその通りツと御挨拶したまでです』

『ア左様か、いや實はな、舊年中はいろ々々あんさんのお世話をしたから本年も不相變人の世話が出来よう、少くとも人の世話にはならぬようと、こんな氣持でゐる私、なんです』

『……どうも話が妙に……』

『まあえゝがなお互に初春だ。陽氣に一つどうだす、お目出度いお話を……』

『さう、お目出度い話で今年は一

つ田家の雪』

『結構な勸題だすナ、俺が郷里を思ひ出すワ』

『ホホーあんさんお郷里は何方？』

『わてだつた、大和の新口村だす。い

つとこだつせ、大阪とちごて薬屋根の雪景色に日の丸の國旗でもチラホラと、ほ

んに今年の勸題そつくり』

『それぢやもしや親御は』

『ハイ孫右衛門と云ひますワ』

『なんやいな、そんならあんさんがあ

の有名な患兵衛はんか、永いことこうして高座で二人交際して來たけれどあんさんの本名聞くのは始めてやがな』

『當りまえや、云ふのは今が封切りやハハ……目出度いなあ』

『あんぢよう、かつぎなはつたナ。』

おぼえてなはれ。まあえゝワ、お正月や、友達がひに勘忍しとこ、時に今年は

丑の歳』

『左様々々申の春芝居にも菅原が出ますナ。』

『あれツ菅原と丑となんのひツかゝりがありまんね、いやさ何んなコンネクシ

ョンが』

『これはあんさんとしたことが、あん

— 30 —

天満の天神さん参詣したことおまへんか」

「云ふてな、これでも自家の氏神さんや、あんたみたいに毎朝、十時過迄寝てまへん、冬は霜、夏は朝露踏んで毎朝お参り缺かしたことおまへんで」

「餘つ程、習字下手と見えるナ」

「何ッ」

「いや／＼あそこの境内に何がゐます？」

「何がゐるつて鳩と……アツゐる／＼モ一云ひな」

「な、わかつたか。牛は天神さん、即ち菅原公のお使ひや、切つても切れぬ縁がある」

「ぢやによつてに當る丑歳吉例初春狂言、菅原傳授手習鑑か、よう理屈が合ふがな、正月芝居にもつて来いや。第一あの牛車を引張るのがお芽出度い名前や、松王、梅王、竹ッ」

「エツ？」

「竹ッ竹々々竹に雀は品よくとまる」

「何ごまかしてるのや、櫻丸やろ、しつかりしいや、だがそれぢや松竹梅には

ならんがな」

「否や結構大當り、赤のタンが揃た」

「阿呆ッ」

「時にこの二日にな、

俺、一つ今年は丑の歳だから喰ひ初めも縁起を祝へともてな、本町のロース家へ行つた」

「ホホー、感心や、あんさんにしちや上出来や

丑の歳の喰ひ初めにすぎ焼とは、で一人でかい」

「さいな、ところがおまへ、俺はあの家は始めてやつたが、どうも不味い、評判を裏切ることに絶大なるものがある。よく

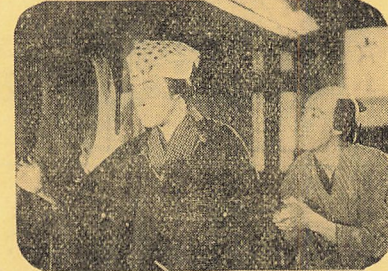
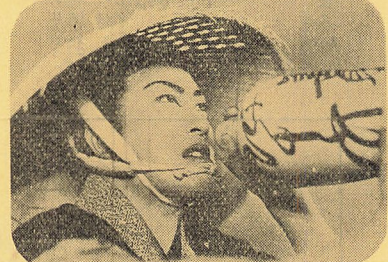
考へて見たらおまへ癪にさはるやないか馬肉やがな」

「フーン、そりや非道い（四〇頁へ続く）」



躍進新興

新春映画集



新興キネマが初春を飾る興味ある大作を續々發表してゐますが、そのうちで主なものを選びつと御紹介致します。

まづ右のカット集の上から順に説明致しますと、新興大泉が新境地を描く無類のユーモアを盛つたトーキー「町内の看板娘」これは新人落合吉人監督がメガホンを採つて、立松、毛利のコンビが珍演してファンに甘い新春の夢を捧げようとするもの、次が京都作品「安兵衛侠の唄」でさきに「浪人大將」を作つた渡邊新太郎監督の快心作、堀部安兵衛の討入以前に於ける豪快なエピソードを描く興味

篇で、最近益々好調の大谷日出夫が安兵衛で頑張つてゐる、その下が大泉の新進高野由美さんの「女の約束」の一シーン、次は御存知の嵐寛壽郎の「國訛道中笠」、一番下は今賣り出しの大友柳太郎の「佐賀怪猫傳」………：エンド

寛壽郎の

百本記念映画

くらんめ十萬石

新興寛プロがかけてより慎重選衡中の寛壽郎百本記念映画は雑誌『新青年』連載の城昌幸原作探偵小説『べらんめ十萬石』の獨占映画

新興キネマ大泉作品

町内の看板娘

化と決定、新興京都の原健一郎の脚色脱稿次第『國訛道中笠』に次

ぐ仁科紀監督作品として着手されることゝなつた。

原作脚色 監督 技師 中井朝一

配役

伊勢恭助 立松 晃
おと き 毛利 峯 子
利根文三郎 ジョー・オハラ
伊勢の妹和子 御影 公子
源 吉 小宮 一 晃
女房おちか 田中 筆 子
銀行支店長 大井 正 夫
支店長代理 鳥橋 弘 一

梗概——伊勢恭助と利根文三郎が勤めてゐる銀行の支店では近日本店と年に一度の算盤競技會があると云ふので大いに緊重してゐた。算盤の下手な二人には憂鬱は毎日續いてゐた。ある時課長に云はれて算盤の下は算盤の夜學に通ひ始めたが一向上達しそにもなかつた。二人が行きつけのどんかつ屋信樂の養女おときは看板娘として町内で評判の美人だつた。そして恭助と彼女の間には満更でもない氣持が段々昂まつて行つた。前年の競技會に勝つて獲得した名譽のトロフィーは同じ銀行の海野が預つてゐたがふとした事から利根が保管することになつた。競技會が近づく頃おときは伊豆にある實の母が病氣との知らせを受けて歸つて行つた。それから數日後彼女から恭助へ宛てた手紙は母が死んだことと残された借金の爲に妹お花は藝妓にするか、おとき自身が綱元の息子の許へ嫁ぐか何れかを選ばねばならないといふことを傳へた。恭助は利根の信樂のおやち達

と相談の上借金を拂つてやつておときの苦境を救ふべくありたけの金を集めたが尙不足なので遂に最後の手段として利根が保管してゐるトロフィーを入質して金に代え恭通と信樂のおやちと二人がおときを迎えに行き漸く連れ戻つた。愈々競技會の日の朝恭助と利根はトロフィーを受出しに質屋へ行くと前夜火事が出て倉も焼失してトロフィーは影もなかつた。銀行へ持つて行くことの出来なくなつた

二人は誠を覺悟で自棄酒に酔つて信樂へ來た時思ひがけなく連勝を祝して乾盃してゐる銀行の連中に會つた。焼けたと思つたトロフィーはその前日恭助の妹和子の氣轉によつて無事に取り戻されてゐたのであつた。二人の誠もつながら恭助とおとき、利根と和子の二組の新家庭の出現も間近である。けれ共御兩人とも算盤は依然下手なのである。

がすで子靜森はソハトイのこ
？かうぜでのゐてし扮に何



信通者讀

- 日十二月毎は切締、一
- にーユグレ、講映、劇演は園範、一
- のもるす關
- 内以字百四回一、一
- いもてく長に特はのものな實質、
- (すまりあがとこくぐた
- 八町門衛左久區南市阪大、名宛、一
- 『部輯編壘傾道』内ルビ竹松
- んせまし致戻返切一は稿原し但、一

春の松竹映画



鬼吉喧嘩状

京都作品オール・トーキー

配役

桶屋の鬼吉……坂東好太郎
全吉兵衛……坪井哲助
荒物屋の万兵衛……高松錦之助
清水の次郎長……南光明
大政……天野双一
小政……中村福松

梗概——次郎長からも可愛がられる程氣ツ風も良く腕も凄いが

只一つ喧嘩早く思慮の足りないのが玉に疵の桶屋の伴鬼吉が、

それでも日頃から清水一家を心よからず思つてゐた黒駒の勝藏

身内でも知られた大八を故もなく斬つたのが次郎長に知られて鬼吉は

親分から謹慎を命ぜられてすつかりムクレ上つてしまつた。その腹癪に割つた瀬

戸物代が拂へず困つてたのに鬼吉が代つて拂つたのが鬼吉に思ひを寄せてる年増藝者

お花だつた。桶屋を営む吉兵衛とその隣に住む荒物屋の万兵衛とは若い頃からの喧嘩友達、とこ

ろがその万兵衛の娘お光と鬼吉とは嬉しい仲につた。お花から瀬戸物代三兩を立替へられた鬼吉はお

光に頼んで偽手紙を書いて貰ひ去る哀れな娘を救ひ

脚本

柳川真一

監督

近藤藤勝彦

撮影

森尾鐵郎

黒駒の勝藏……山路義人

小岩……永井柳太郎

小二……金井小二郎

勘助……保瀬英二郎

瀬戸物屋のおやち……石原須磨男

お花……柳さく子

お光……最上ト米子



梗概——戀に飽きた男が都會を

棄てゝふらりとやつて來たのが或る温泉町この男(夏川)は「大學ラツバの寛」といふ異名で通つた現代の股旅である。

寛は町の餓鬼大將仙太(笑貫)に教へられて親分大佛(河村)を訪ねたが素氣なく斷られた、だが一人の親切的な親分長次(石山)の許で靴をぬぐことになつた。翌日長次の乾分吹流しの安藝兵衛(山田)に町を案内されてゐる折しも、大佛の乾分達に因縁をつけられたが、寛は逆に彼等をやつつけた。この町の二人の親分のうち大佛の方は羽振りをきかせてゐるが長次の方は落目である。だからこの事件は長次をいよ／＼びく者にさせるのであつた。

長次の顔を立てるため、寛が、大佛の家へ挨拶に行つた歸りの夜道、乾分の見送りと見ぜかけたのは大佛が寛をバラサウと魂膽につた。

踊りの師匠お若(坪内)はもとはこの町の町の藝妓であつたが満洲

へ賣られてゆく處を救はれた義理で、今は内妻になつてゐた。

B 大學の陸上競技部が例年通りこの町へ合宿練習にやつてきた、お若は半玉の頃から親しい仲である學生の吉村豊田にこれを知られるのが辛かつた。

お若が吉村の合宿を訪れたのが大佛に知れた。

大佛の娘おせん(高峰)は一、二度顔を合せたばかりの寛が忘れられず、妹のお藤(島田)を相手に寛に贈るセーターを心をこめて編んだ。

そして或る時寛に會ふため長次の家へ行くと計らずも其處で寛を待つてゐる都會風な女クニ(三宅)を見た。

内氣なおせんはクニと寛との仲を察してひとり淋しく折角のセーターを解くのであつた。

B 大學の選手達は昨年的好敵手A 大學の寛に再び學校へ歸ることを勧告したが、東京へ歸りたくなかつた。

お若は大佛と切れて吉村にも會

へず土地を離れてゆく。

大佛は寛がお若を逃したものと思ひ込み長次の家へなぐり込んだが寛の度胸のよさ。

クニは、熱心に寛に復校を説いた。寛が歸るまでは東京へ歸らないといふクニに決心であつた。お互に愛してはゐるたけれど寛は歸ると言はなかつた。

そして又靴がはきたくなつた。

處へ地方廻りのレグユーの一行がやつてくることになり長次がその興行を引受けた。

大佛の方はレグユーを斷つておいて浪花節の興行で長次の方をだし抜いた。浪花節は大繁昌、レグユーは閑散無比。

大満悦の大佛に引かへ長次は乾分と夜逃の支度、これを見兼ねた寛は決然立つて長次を奮起させた

大佛一味と長次一統の果し會ひ風來坊の寛が靴をはく日、クニ子の乗つてゐるレグユーの馬車は北へ立つた。學生達の馬車は南へ。おせんにも別れ、さて寛はどこへ行く？……………

繁華街に近く、交通至便

閑雅な和洋室！

◇モダン階上浴室新設◇

南地ホテル

一宿 三圓
二圓
一圓半

額半

南地戎橋電停前

電話南四一四・四四一

中村芳子さん訪問記



生 た ん げ
派特六西小・眞寫

と誠に寛いだ挨拶をしたら

『おほきに……』

と膝前の餘の罐を細い指先で
すゝめて下さる。

お父さんそつくりの目、笑

へば『大成駒家』と聲がか
度くなる程だ。そろ／＼ムチ

ヤクチャな質問にかゝる。

『澤山なファンから手紙が
来るでせうね、どうです、男

のファンからの手紙を被見ね
がへませんか』

『見せたげますけど、あん

たがほしがりやはるやうな手
紙、一つもホ、ハ、』

娘成駒家は聰明である。

『ではファンは斷然女の方

が多い譯ですね』

『それも、どんな譯か大阪

よりも神戸の方が……』

『京都は如何？』

『かなりおかげで後援して

下さいます』

『芳子さんは、斷然大阪辯

ですね』

『勉強してまんねんけど、

この間も中座の『鐵の街』でモ

ダンガールの役をもううて、

一寸弱りました』

『なる程、さうでせうね。

しかしベンチャラは抜きにし
て、あなたは太變近頃上手に

なりやはりました』

『ほめられたらはずかしいワ』

數わからぬ程の籤をつくつ

て、ガルボの名まで書き込み

そつと一本ひいてみたら、中

村芳子さんが當つた。當てら

れた方こそ忙しいのに迷惑だ

らうが、當方は至極心臓が強

い、大當り百萬弗のよい女優

訪問と出かける。

芳子さんは、何を尋ねても

『わてそんなこと知らんワ』

などとはおつしやらない。と

『芳子さんは新しい芝居より舊い芝居の方がおすきな様ですね』

『自分では基本的な勉強をさせてもらうてゐますつもりで……』

『芳子さんは淨瑠璃をやつてらつしやるんですね』

『好きでもあり、淨瑠璃をやつておくと、せりふ等もしつかりするデ言やはりまつさかいに……』

『何時かラヂオの忘年放送かなんかのかくし藝大會で拜聴しましたよ』

『笑はりましたか』

『津太夫さんより下手ですね』

『それやつたら相當なもんだなア』

娘成駒家は相當なものだ。

今度は芳子さんから

『大くなる法知つたはつたら教へとくなアレ』

と突然にきかれる。ボクどきまぎして

・『足つぎをします……』

と答へたら、人は見かけによ

るもんや、この人やつぱり頭がよくない——といふやうな顔をなさつて、

『イ、エイな、わたし、小

さいので悲カンしてまんねんがな』とおつしやる。さう言

はれてつくづく見直せばなるほど、いさゝか小づくりかなア?

『でも四尺五寸はおまつしやろ』

『あほらしい、これでも五尺とちよつとおますわ』

『それだつたら大きい方ぢ

やないですか、女義勇軍が編成のあかつきには必ずパスする……ちよつと立つてみていたゞけませんか』

『かうだつか……棚の物下すのんいやだつせ』

『恐れ入ります』

大きい——といふ顔すると坐り直されて、

『ターキーさんは五尺三寸ですと』

『五尺の娘さんが何も三寸を問題にすることはないですね』

『さうかて石河さんも水谷さんも大きいワ』

この邊り、成駒家先祖代々の謙譲の美を發揮されて、勝

を大にゆづらうと娘成駒家奮闘の巻である。おかしい處に力を入れなざるものではある

と考へる。そこでくると鉦をかへして、

『どうです舞臺からお客への御注意といつた處は……』

と膝を一寸前へ進めると、一寸お姉様のやうな態に首を傾けられたが、

『さうだなア。これはちよつと生意氣だつけど、居眠りなどしたはるお客さんがチ

ラリと目につくと、何となふ泣き出し度い氣持になります

それからこれは今の大阪の劇場に註文することは無理

なことになるますが、お子達を連れたはりますお客さんが

お子達のおだゝに手をやいたはる様な時、大阪でも、東京

の或る一部の劇場でやつておいでになるやうに、お子達をお預りする設備が出来たらと

これは不足でなく、御同情申し上げることがあります」

どうして／＼娘成駒家は卓越した意見を吐くです。そこでもう一つ

『やり度い役は？』

と駒を打つことにしました。

『お三輪とか、お里とか云つたところだんなア』

『理由をお持ちですか…』

『どうしてもオキヤンな役の方が榮えまつさかい……』と、中々ガツチリなさつてゐる。

『舞臺ではどなたに師事なさつてゐます？』

『勉強時代が今後幾年もつゞきます、その間どなたのお世話にもなつて、一人前になり度いと思つてゐます』

『なるほど。その意味から劇通家の方々にも多く接せら

れて、よくお話を聞きなされるやうおすゝめしたいと思ひ



ますね。』

『高安六郎先生やその他の方々を澤山存じてゐます…』

『その方々にせい／＼よい芝居のお話を聞きなすといふです。それから芳子さんは映畫がお好きぢやないんですか、お父様がお出でになりました頃はよく松竹座へお出かけになつてをりましたね。一階に一等席がありました時分よく西側においでになるのをみました。』

『別に外國映畫が好きといふ譯やおまへんけど……』
『研究の爲といふ譯なんですか』

『そんな大層な氣持やおまへんが、知らず／＼のうちにそんな態度になつてゐること

「もあります」

『映畫と云へば、島の内の大野家族館の主人が秘藏する十六ミリで、幼なかりし日の芳子さんが、お父さんと夏の夕方ともみえる日にシミーズか何か一枚きりで、ブランコに乗つたはるのやら、植木に水をやつたはるのやら撮つてあるのをみましたが、今そんなにすましたはるところと比べると一寸おかしくなりますよ』

だがこの邊り甚たお返事明瞭でない。

こゝ等がみこしのあげ時かと、そろ／＼叱られない先にペンを納めにかゝると、おつかけるやうに、

『もつと聞いとくなするこ』

とおめへんか』

と見事ウツチャラれる。

兄さんは關西梨園の寵兒、林長三郎さんに中村扇雀さん何時か或る新聞社が扇雀さんに質問して、

『鴈治郎丈なき後の貴丈の芳子さんに對する氣持は？』とあつた。

『尙しみ／＼と可愛さが増した』

と答へられ。

僕らの臉を熱くするものがあつたが、今亡き人ながら日本一のいゝ父の子に生れた芳子さん、今かうしていゝ兄の後援にスク／＼育つ中村芳子さん。ウンと勉強して日本一の名女優になつて下さい。

.....

【三二頁より續く】

『春早々、馬鹿にしてやがるわな、カイツとなつて酒の酔も手傳つてるし、いきなり、亭主を呼べと云つてやつた。ところがおまへ出て來た亭主が又、商賣がらにも似合はぬ無賴漢そつくりの奴、キングコングが匪賊になつた様な面してけつかるんや、ムカ／＼としておまへも知つてるやろ日頃の俺の腕でものも云はつノックアウトと思つたが、まて／＼此家も縁起商賣、然も松の内、強いてことを荒だてるのも大人氣ないとおまへも知つてるやろ、日頃の俺の俠氣から物柔く丑の歳の初喰ひ客に馬を喰はせて不都合千萬、以後氣をつけないと念の爲、亭主の名前だけ聞いたんだ』

『豪いッよう勘忍した。なる勘忍誰もする、ならぬ勘忍するが勘忍だ。で亭主の名前は』

『馬喰ひの丑五郎』

『へいお退屈さま』

は居芝おの春・扱

— 郎 一 孝 橋 大 —



中座の吉例復古歌舞伎もかうして毎年の慣はしともなれば楽しいものだ。例へば冬の京の顔見世で、今年の出しものは何だらうとの興味と同様に、今年の復古歌舞伎にはどんな趣向が凝らされて、どんな狂言が揃ふのだらうとの興味が、暮近い師走の好劇家の口の端に登るやうにまでなつた兎に角何かうした習慣なり慣例を作つて、將來を危惧されてゐる歌舞伎の古いいきたりを保存して行くことは、今の場合嬉しいこと

でもあり、必要以上に必要なことでもあらう。歌舞伎と云ふものの、元來が型本位のものであるだけに、色々な云ひ分はあらうけれども、矢張り型は型として尊重保存して行くべきが、その時代々々の歌舞伎道にたすきはる者の仁義ではないだらうかと考へる。そうした意味で、毎春中座で上演される復古歌舞伎は、今の劇場に一つの必要な分野を持つてゐるやう。關西の歌舞伎俳優の方々も、何時かの『元祿忠臣蔵』とか云ふ歌舞伎レヴィューみたいな變なものに力を入れ擧ぐる能力を抑制して、かうした興行で、ミツチリ精魂を打入れてほしい。尤もこんなことは云ふ迄もないことだけれども、軌道を外して歩むことが、やゝもすれば受入れらるゝ今日、老婆心からでも云つて見たくもなるのだ。

だが斯うした言葉は、餘りにも現代の思潮を無視した云ひ分で、何らの新味を要求しない保守一方の觀念だと、或ひは

色 十 人 十

ツコ」『ローズマリー』『クリスチナ女王』

松竹・下鴨 坂東好太郎

(イ) 風呂屋。但し平凡な風呂屋にあらず入浴しながら富士山を眺めることの出来る富士見湯といふ名がつけられた。

(ロ) 僕の戀人のやうなタイプ。どんなタイプだつて、元談ちやない、筆や口では絶対にあらはされない位のすてきなタイプなんですすからね。

(ハ) マラソン、理由は心臓が強いから。

(ニ) 一萬圓位は一日の小使にもなり申さず、せめて百萬圓位とでもおつしやるなら費ひ途もおしらせしますが……。

(ホ) 『鎌倉三代記』『玄治店』井上正夫、水谷八重子の『ウミナリ』

曾我廼家五郎

(イ) 遠き先祖はアメノウズメノミコト父の代になつて人生劇場の專屬俳優と云つて判られば辯護士。

(ロ) 鼻の低い何時もニコニコ笑つてゐる女なればよし無智でも。

(ハ) 大悲劇の主人公殊にうんと憎まれる様な敵役。理由はいつても色男の爲女に持てるのがあいたから。

(ニ) そんなハシタ金は使ひ途なし、編輯部諸氏にお年玉に八百萬圓づゝお届けし

嘲笑を受けるかも知れない。勿論僕自身にも、例へ歌舞伎とはいへ、時流に照して歩むべきことは百も二百も承知してゐる。新しい脚本が、殊に最近多分に要求されるやうになつて、あらゆる劇團が、好き脚本を物色するのに躍躍してゐることは御承知通りである。しかし歌舞伎俳優のやる新劇には、どうしても穿き違へたものが多し氣がする。就中老成俳優のものに於てある。これは時代の空氣を明治から現代まで色々の雰圍氣の中に呼吸して來た爲であつて、新らしくなるべくして、なり切れない怨みが深い。此處に演出上のギャツプがあるのだ。

僕は二三年前の復古歌舞伎で、延若壽三郎の『英國孝子傳』を見て、非常に面白く感じたのだが、結局幾ら六ツかしい議論や、脚本を、此の人達に要求しても、それは無理が過ぎて反つて變なも

のが出來上つて終ふ。このあたりの脚本が、矢張り此の人たちには一番ビツタリ意氣合ひが合つて、芝居を見る方も面白く、演る人にも無理がなくて、いゝ結果が見られるのではないかと思ふのだ。

新らしいものは、新らしい時代の空氣しか知らない人にまかせて置けばよろしい。老人と若者とは、どうした觀點から眺めても一致はせまい。老人達がやる新劇と、前進座や新國劇あたりの人のやる新劇とは同じものでも受ける感じが全然かけ離たりのあるものとなつてゐる。例へばこの正月の浪花座で新國劇の出しものである『草三と四郎藏』はこの前『初給間・秋祭』とかの題名で羽左衛門の演つた脚本と同じだそうだが、舞臺では全く別個の感じのものに出來上つてゐるそうだ。新國劇の方が完成されてゐることは勿論である。これは大體羽左衛門が眞山

十 人 十 色

度いと思つてゐた所です。

(ホ) カナキ『義經萬本枕』シンバ『二等郵便局』洋畫『トロツコ』

東京新派 武村 新

(イ) 水菓子問屋。

(ロ) 酒の相手の出來る美人

(ハ) 特に種目の中に角力を加へて参加(理由は喜多村河合兩先生にも勝つ自信がある)

(ニ) バツバ／＼と使つて連中の(組見入數でもふやすか。

(ホ) 十二月の巡業の一の宮で大船映畫『少年航空隊』を見て感心した。芝居は藤治郎の紙治が一度見たい。

(イ) 松竹家庭劇 石河 薫

(ロ) 餘りモダンでないお方

(ハ) 砲丸投 それにちよいと足してダイヤを買ひます。

(ホ) グレタガルボのアンナカレニナ『十六夜情心』

(イ) 父は製造販賣業、移動機半屋

(ロ) 今のおやぢでは……若い氣持で好み

實川 鴈正

氏のものを手がけ様とする處に根本的な狂ひが生ずる。羽左は羽左の身の上のものを演つて居ればそれでよろしい。

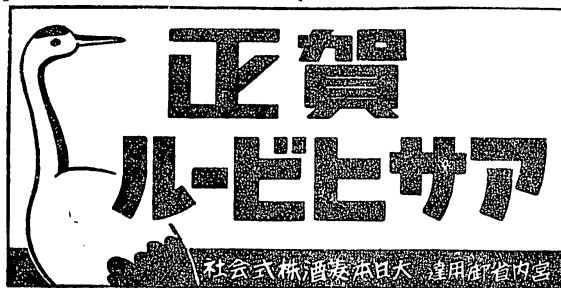
同様に、中座に籠つてゐる關西歌舞伎の巨星連が、あゝした復古歌舞伎狂言のお膳立の前に坐つてゐるのは、何かしら僕には安全さを感じるのである。

今年の正月の各座の出しものは排列は非常に好感が持てる。中座は今述べた様に安全第一だし、新國劇は「勳章」などの野心的な出しものを狭んで、一番目物も三番目物も手堅いし、先づは此の劇團での理想番組と云へるもの。

角座の關西新派も近頃富に新しい脚本主義に進進してゐる姿が、けなげに見えたが、今年もその意圖を踏みこたえて十分活躍をして頂きたいところ。京都では井上、水谷が先月東京で評判の好かつた「熊の唄」をひつさげて、初春第一の

ヒットにせんと意氣込み物すさまじい、いやこれも結構。兎に角、各劇團が各々その本分を守つた番組編成として、春のお芝居からは新らしい魅力が湧き上つて来る……

(十二月二十四日)



十 人 色

ますと、健康體で運動好き、體重五六十キロも有らうと云ふ女。

- (ハ) 槍投の選手です(和田兵衛の附け送り)(義士討入りの惣出)等々でキタエた腕前ですから断然槍投に参加します
- (ニ) 一万圓の内三千圓も國防費に献金、七千圓でアメリカ見物、もし残つたら四國詣り。

(ホ) 岩見武勇傳、二條城の清正、映畫はロイドの牛乳や。

實川 延郎

(イ) 加賀百万石大星由良之助

(ロ) タイプは一石六斗『後姿を見てハット(八斗)前を見てハット(八斗)』

(ハ) 忠臣藏驚坂件内(色氣ありて若く且つ石部金吉のため)

(ニ) 道頓堀の御連中と共に一瞬にして散財。

『ホ』『手習鑑』『紙治の炬燵』

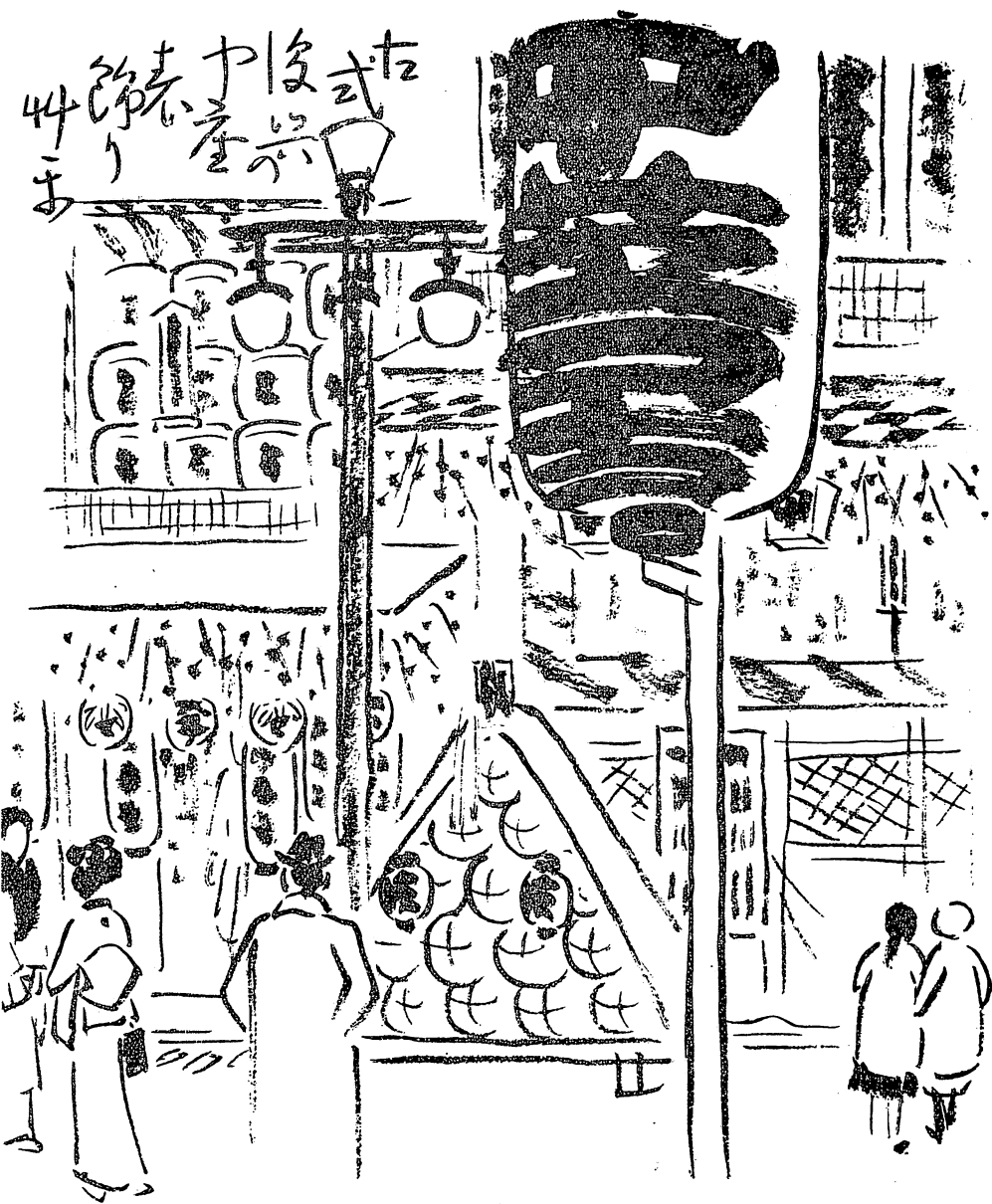
實川 延三郎

(イ) 實川延三郎と云ふ俳優の家でした。

(ロ) 何人が見ても好きそうなタイプが矢張り好ましいです。

(ハ) 女形として向きそうな種目があれば御選定願ひます。

(ニ) 知つてゐる限りの美人と一晚に散財



色 十 人 十

します。

(ホ) 嫌ひな芝居は有りません。

中村福之助

(イ) 生家俳優但し新派

(ロ) タイプは太り勝ちな方

(ハ) 水泳か野球

(ニ) 軍事費です。

(ホ) 芝居では『國定忠治』『自井権八』『寺

小屋』『古八』映画は浪六の蜂須賀小六、針賣少年、村の少年軍。

嵐 珪藏

(イ) 生家は俳優でした
(ロ) 私は喋々のまげのタイプが好きです。

(ハ) オリンピック大會有れば私はマラソンが希望です(身體の運動には一番よいと思ひます、特に營業上好みま



色 十 人 十

(三) 今の所ではかんがへてゐません。
(木) 題は忘れましたが洋畫が好きです。

中村鴈之助

(イ) 壽し屋なれど小生權太に非らず、至つてお優しきボン／＼にて候。

(ロ) コオツと？ 矢張り彼の女の様なタイプが一番好き。

(ハ) 馬術と槍投げ、(希望理由は引だけは一入前に出来るつもりですから)

(ニ) 兎に角嬉しいです費ひ途なんか『ヨー云はんは』そんな事絶対に于涉しないでほつて置いて下さい。

(ホ) 見て好きな芝居、と演り度い芝居とあまりに澤山で書けませんこれは今度改めて...



關西新派劇の 大衆性に就て

都 築 文 男

名古屋興行を打上げて、久方ぶりに我家の國を跨ぐと、二通の手紙が待ち受けてゐた。

一道頓堀からの原稿依頼と一ファンからの通信である。偶然の一致と云はうか、このファンの手紙の内容が我が云はんとする處を遺憾なく穿つてゐるので此處に内容そのまゝを披瀝する。内容は觀者の見地から觀た芝居の興味性である。

× ×

都築足下

私は關西新派のファンであり、總帥都築氏の熱心なるファンである。關西新派

の不在中その本城角座に出演してゐる一燈園のすわらじ劇團を一夜觀ました。

高の知れた宗教劇團がどんな芝居をするだらうと、失禮かも知れませんがあまり期待せずに觀たのですが、關西新派の中毒にかつてゐる目で觀劇した故かも知れませんが私は驚愕したのであります。その面白いの——一、ころげゆく骸子二、妻戀坂、三、市川新升、四、旅の風來坊の四種狂言です。

端役仕出しに至る迄隙まなく完成された舞臺なのです。

配役の當を得たのと、統一された劇團をまぎ／＼と見たのです、唯市川新升到扮せられた山田隆也氏は稍不適役の感がありました、己に劇界を捨て、心は

山科の一燈園へ越つてゐる役者としての魂の抜けた新升到に、その心情に一脈通する所があつて反つてよかつたのかも知れませんが、對手役の菊田澄子嬢も初見參乍ら身柄、聲調など申分ありません。新升の母に嫁に來て呉れと勧められ、新升の人格と其氣持を知れば知る程愛する故にきつぱりと斷るあの眞實溢れた科白は後口にいつまでも殘る珠味の如く心良いのでした。宗教劇團が通俗的に富んだ狂言を撰んだ爲だと感じる方があるかも知りませんが、どの狂言にも一燈園調とでも云ふ崇神の精神が溢れてゐるのは誠に清々しく氣持いゝものでした。

閉場の歸途ふと關西新派の事が腦裡を掠めまして、嫌な氣持が致しました、關西新派のファンの私がどうした事だらうと自分乍ら不思議でした。大抵四種狂言を演じてゐられるやうですが、最近なぞ

はその中二狂言は殆ど駄作で見るに堪えぬものが屢々あるのです、都築、梅野井氏のコンビ作品はいつも嬉しく心躍らせて拜見させて頂くのですが……これは無理かも知れませんが、一ヶ月二回の狂言替りで四種宛として月八種、それに大阪にて續演々々となれば脚本難にぶつかるのは當然だとも考へられる、これに反してすわらじ劇團は偶の道頓堀公演に精撰した脚本を携へしかも全國的に著名な名作者が無料で脚本を提供するとか云ふ事ですから、相違を來す事は當然でせうけれど、

俳優の個性を尊重しない打算的な興行主の罪かも知れませんが、そうして名俳優が人氣を失ひ自滅して行くのではないでせうか。せめて東京方に新派と云へば抑壓され勝たぬ関西新派が立派な成長をしてくれるのを楽しんでゐる私なのです。

藝に生きる都築氏との若さで飽くまでも眞摯にあらゆる方面の難役をこなす梅野井氏を葬る事は誠に残念の極みですこれは貴方ではなく興行主に申し上げた事です、面白くない脚本を甘んじて拜見しようその代り過去の飽満した関西新派でなく新しく養成された関西新派であつて欲しい、變化のない向上のない現在をぶち壊して新しい劇團を標榜することだ、オット失禮、都築氏よ過激な言葉を日頃に見じて許して頂きたい、だが賢明なる都築氏よ私の言葉が何を語らんとするか想像して頂きたい。

御自重あれ、君の永久のファンであるが爲に敢て苦言を呈するのである。

と云ふのである。

これによると我が大衆性とは何である

十 人 十 色

- 新興キネマ 尾上榮五郎
- (イ) 人形屋でございます。
- (ロ) 水谷八重子型及川道子型を一つにしたものとても云ひますか。
- (ハ) 断然棒高跳びですれ、(槍棒を使ふのは小生の好みです)
- (ニ) ライカが幾つ買へるかつてトタンに考へますれ。
- (ホ) 山本有三の『坂崎出羽守』長谷川伸の『暗闇丑松』。

青春座 花田須磨子

(イ) 畫家

(ロ) 日活の小杉勇タイプ

か、との答として新鮮、眞摯、即ち目先の變つたもの、統一された熱心なる舞臺が脚本そのものよりも必要だと返答したい。

残念乍ら、現在の関西新派には多分この營養素が不足してゐるのである。

(丁)

鍋りチ

木枯しに襟掻き合せる頃ともなれば鍋物が一入戀しくなる、取分け左利きには、又ないお相手だ。それも十五錢屋の火なし鍋じや浮氣な女のやうに始めは熱いが直ぐ冷めて義味くないが、カンテキに煽られながら豆腐、はく菜と次ぎ／＼に入れながら飲む酒は一段と楽しみなものだ、鍋物の中でもコチやオコゼも結構だが何と言つても河豚に越したことはない。

情人は年増に鍋は河豚

いふに言はれぬ味があ

だが、大阪では御法度で河豚は喰べられない、その代りにテツと稱するものがある河豚によく似てゐる、

ヒレ酒に刺身で温まり、チリ鍋を楽しんだあとで小餅を煮るのも妙であるし、雑炊の味は又格別捨て難いものだ、

聞くところによると、テツは大層血液の循環をよくする効があるそうだ、

血の環りのよくない連中はセツセと喰るがよからふ。

どこがそんなに美味いのか……と聞かれると返答に困るが、想ひ出しては又喰べたくなる妙に魅力のあるものだ、
或る女の告白によると、

「男の中にもこのテツのやうなのがあるそうだ、會つてゐる時には左程にも思はないが、さて一人である時にフト想ひ出すといやもう、無性に戀しくなつて、居ても立つてもゐられなくなる」のださうだ、

一度でもいいからそんなに想はれる身の上になつてみたいものだ……
喰べる時には左程に美味いとも想はぬテツ……のやうにこれにも亦どこかに魅力があつてのとであらふ……

ひれ酒に

刺身のあとが

チリ鍋と

テツが入れば

銀貨出て行く

比 左 次

十 人 十 色

(ハ) 歌舞伎(女性としての何の程度迄やれるかしら……)

(ニ) 自動車を買つて夢の國にドライブ致し度く想ひます。

(ホ) 玄治店、梅忠、思ひ出、ライラックタイム、人妻椿。

OSSK 大隅 豊子

(イ) 木箱商

(ロ) 何にかもシャルルボーアイエ型の紳士。

(ハ) 應援團員(此名アルト調で)

(ニ) 一万圓でどれ位、芝居や映畫が見られるかしら……勿論芝居はカブリ付、映畫は三等席でいゝから……少しは自分のものになるかしら(物おぼへの悪い私ですから)

(ホ) どれもこれも皆それ／＼いゝ所があつて別にとは云へません、特に歌舞伎、歐洲映畫等。

OSSK 秋月恵美子

(イ) 何にもしてゐませんでした様すわ。

旅の話

— 石 河 薰 —



旅は憂いもの辛いものと、昔から相場の極つたものですが、そりや手甲脚絆で草鞋履きや、後がけ草履で旅をした昔は、憂いもの辛いものだった事でせう

勿論、旅と云つても、いろいろな旅もあつて一様には憂いもの辛いものと申されませんが、私達のやうに、芝居で旅をする身は、初めての土地でしたら、知らない名所古蹟を見る楽しみもありますが、私は一番憂いもの辛いものを感じますのは旅館で格式ばかり高くつて、扱ひの伴はないのは、落付き得ないものです。

まア斯様旅館？ と思うやうなのが、兎ても居つきがよかつたり、随分案内に出會す事が御座います。

先達て——と申しましても昨年の十月巡業に出した時に、出會しました事を二つ三つ……

◆ — ◆
土地の名と旅館の名とは、
？にしておいて下さい。

土地では、宜い旅館だそうですが、それが兎ても變なんです。場所は公園近くで閑静な、家も宜いんですが、どうしたと云うんでせう。いゝえその室附きのお女中さんも宜いんですが、夜、芝居を済まして歸りましたら、朝出たまの室の有様です。茶器も飲み散らしたまゝ、座布団も歪んだまゝ新聞も読みひろげたまゝ、と云うふうにそのまゝですから掃除は無論してないのです。

その二日目の晩、歸りますと、女中が眼を泣腫らして出迎へるのです。私はハツとして了ひましたわ、前日の有様

を劇場へ行つて、座談にしましたのを、劇場の方から旅館へ云つたらしい、と私は直感しましたので、濟まないやうでもあり、氣の毒でしたとも思ひました。

けど、女中さんは、さよならをする迄、一言も口を開かないで私を送り出すのでした

◆ — ◆
次は四日市での事でした。

旅館の大正館から自動車で、次の巡業地へ向うために、ステーションへ急ぎました。ところが、私はどつちのステーションへ行くのか忘れて了ひました。

御承知の通り、四日市の驛は、二ヶ所になつてゐますので、どつちへ行かうに聞いたか、思ひ出さうとしますが

分りません。

「多分、私はこちらだと存じますから……」と、運轉手

さんは、そう云つて、舊驛へ車を停めました。待合室には座のお方は一人も見へません。尤もまだ時間は早いのですけど……だな、もしや違つたんぢやないか知らん、と待合室を出やうとします處へ、先程の運轉手さんが、急ぎ足で來まして。

「失禮致しました。只今、念の爲めに新驛の方へ廻つて見ましたら家庭劇のお方は、お待ちです。どうぞ……」

「そう、有難う。」
何んと云う親切な行き届いた人だらうと、私は心ぞこから、感謝せすにゐられませんでした。

も一度お禮申します。
有難う！

斯うして次から次へと巡業してるといふ人に出逢ひますので、モシヤ出逢はないかと、歩いてゐましても、旅館に着きましても、又芝居の方で人々がお話しの中にも探し出せないかな、と思う人が、私にあるのです。

戀人？ あらッそんなのなら宜いんですが、七八年にもなりませうか、内へ來て居りました女中なんです、内を出て、國へ歸つたと思つてましたが、國へも歸つて居ませず、どこにゐるんだらう。と旅へ出ますと屹度、思ひ出されるのです。

それが、矢つ張り四日市へ

行つた時です。旅館へ見知らない相當年輩な男の人が訪ねて來られましたのです。

それが探してる女中さんの兄さんでモシヤ又私の許へ來てゐるのではないかとたづねに來られたのです。私も氣にかけ、此のお方も探して居るのに、一體どこへ行つて了つたと云うのでせう。
人生夢の如し……て、本當に去り行きし人を思うと夢のやうです。

たゞ、私が心配してゐますのは悪い人に誑されて、泥沼のやうなところへ陥つてゐるのではないかと案じて居ます。

十 人 十 色

- (ロ) とつてもやさしい方……それからチヨイトスマートな方ならよけいに好いと思ひます。
- (ハ) ハイキング競(だつてあたし彌次郎兵衛ですもの)
- (ニ) まあ一万圓だつて、そうよるこばないでね……
- (ホ) 新劇劇のお芝居なら何でも結構映畫は見たもの大てい好き。

T S S K 天草美登里

- (イ) 知りません。
- (ロ) たへば、アドルフ・ウオール、プリニーク。
- (ハ) 分りません。
- (ニ) まづ車を買ひます、そして友達を澤山乗せて遊び度いです。
- (ホ) 映畫『ローズ・マリー』『或る夜の出來事』

御觀劇には特に



新發賣 鷄せんべい
優美鑑入 送料共 御推獎申します
一、二〇
瓢亭 食品部

映畫俳優舞臺の憶ひ出

尾上榮五郎

坂東橘之助

舞臺の憶ひ出といつて檜舞臺の憶ひ出も二三数える事もあつたが自分として一寸面白い今でもくすつと獨笑する一つの憶ひ出がある、師匠はよくピタを働く奴は場違いだとか場外れだとか藝が荒びて檜の歌舞伎芝居の役に立たぬと仰有つていた。然し又一方考えると俳優としてかけ小屋から檜舞臺迄一から十まで知識あつてよいのではないか。荒びさす藝を荒びさすに達者に練磨してそれをきれいに仕上げたら、初めて素直の底のがつちりした腕になるのではあるまいか。

まだ名題下で大部屋にはね廻つていた時代だ。たしか今大泉の新興キネマ撮影所のある土地だつたか、爰に田舎の秋の祭だといふ時に必ず掛小屋をかけて芝居をする、これには旅廻り役者だとか歌舞伎の廻りの俳優をかき集めて夜六時頃から夜半の二時三時頃までやるのだ。爰の芝居へ雇われて行つた時の憶ひ出だ。其時分役者として（小役芝居以外）あまり主演などしていない時だ、汽車は二等だ、役はよい役をさせるといふ世話役某氏がうまい吶を持つて來た其頃は金錢問題などにかゝわらず只役が出來るといふのを楽しみにして師匠の目を盗んで歌舞伎座の自分の持役（といつた所でその頃の僕は只ワンサとしてだ、バツクか通りぬけの仕出しの役しかしてやしない）をすまして宙を飛ばや

幼い想ひ出の夢路を辿つてあれから二十年の潮が流れてゐます。私の生れた瓦町（柳橋）の近所の竹馬の友を集めて座頭格になつて芝居ごつこをして毎日遊びました。丁度筑波嶺に紅葉し初めた頃だつたでせうか舞臺を好んで市村羽左衛門の門を叩いたのは十一の時でした。——師弟の愛情も細にすく／＼と伸びて私の丁度十七の年であつた、天は私達に幸福な恵みばかりは與えて呉れなかつた。天變の一時に襲ひて忘れもせぬ九月一日の大震災でありました、勿論世の中の騒然たる暮の中に私達の唯一の舞臺も失つて仕舞ひました、如何とも致し難く一時師共別れて私達青年部は同志と計り悲壯の決心を持つて自己等の藝への修業への爲め地方へ巡業する事に致しました。檜舞臺と違つて、尙未熟者の揃ひで其

になった。サア初めて自分の本領に入つたと喜んで爰に一緒に行つたK君が源太をやり、自分は平次をやる事になつて出る前に一寸口立で合せチヨボとも合はして、これでよしと幕をあけた。然し悲しいかな、みんな舞臺度胸はその頃心臓の強い割にまともな物となると良心がとがめて固くなつて台詞などつまつて了つて「大根」「大根」と野次が飛んだ。自分も台詞を忘れてチヨボに台詞を語つて貰つてその間身振りをするのに手もなくて突差の間に長唄ク鶴龜のト指を舞ひチヨボの切れに大見得切つたらバタ／＼とうめえ／＼役者とはめられた。幕がしまつてみんな同志が顔見合せて田舎の芝居といふ物は、はね廻つて大聲で達者に働けば受けるといふ邪道だ、師はこれをいやがるのだ、この時の舞臺は今憶い出しても苦笑する事だ。

は必ず吉原へ顔出し致しますのが條例となり知らず遊び過ぎて舞臺の出も出来ず、後で散々に叱られて仕舞いました。若い時の失敗談として今でも二つ話に致してゐます。——そうした朗な長閑した日のみはありません、青年部に取つて鬼神の如く心經の惱みの種となる「名代試験」であります。私は其時に仙臺萩の「政岡」を演りました、私の主人は日頃萩の弟子の事は餘り憐れはぬ人でした、言へば「俺の藝が未熟者のお前達には出来ぬから教えぬ」と云ふ主義の人でありました。



洋酒・食料品 罐詰問屋

株式會社

横山商店

大阪市東區豊後町三番地

創業明治五年

電話東94代表三八六五番
振番口座大阪二八四七番

對話

櫓ノボル
大木戸徹

「オイ大木戸君、去年は傍白欄で盛んに何かアツく云つてゐたやうだが、今年は一つ、僕と君との對話で行かう」

「面白からう、大いにまた、この劇界を横眼で睨んでやるか」
「……だが、先づ新年はお目出度う」

「いや、お目出度う、今年はほんとにいゝお正月だ、どの劇場も映画館も満員つきで、大變な成績をあげてゐるやうだぜ」

「それは結構、劇界映画界のために祝福したい事だ、所でキミ、

一杯のませてくれ給へ

「オイく、僕と君とは萬歳をするために此處で會つたんぢやないぜ」

「そりや判つてゐるサ、劇場の四方山話、それからシンラツな批

判……」

「シンラツな批判はよいね、そんな君は、現代の劇場に向つて何かいいたいのかね」

「云ひたい事だらけ……。口に關所がなければ思ひ切り、云ひたい事を云つて、聞く人をして成程と云はしてみたいと思ふよ」

「口に關所がなければとおかしい云ひ方だね、關所もなければ税金も掛らないから、云ひたい事は云ひ給へ、聞いてあげやう」

「所が、僕の口には關所がある

……。あんまりコツピドイ事をいふと、編輯子といふ富堅の左衛門が、通す事罷りならぬと素袍大紋の手を廣げさうだ」

「さうか、それぢや仕様がなから辨慶もどきに、デタラメの勸進帳でも讀むか……」

「それもよからう……。それをつらく思ひみるに……。ネ、君世の中には心臓の強いといふ事があるだらう」

「何だい、その話は……。だしぬけに……」

「殊に劇界には心臓の強いのがうよくゝゐるやうな氣がするがどう思ふネ」

「心臓の強い人間なんて一人もゐやしないよ、みんな優しい弱い人間ばつかりだ」

「さうかしら……。ほんとに弱い奴ばかりか知ら……」

「有名な昔の名作を、その題名も内容も殆んど同じなのに新作の如く装ふて出してゐる作家があるかと思ふと、心中仕損ひの女が劍闘女優になるといふトビツクなんかその一例だ」

「なるほどネ、しかしそんな事に神經をとがらすのは君だけぢやないか、世の中の人は案外平氣で見送つてゐるよ」

「それから自分の色女に小唄を唄はせて踊つてゐる役者……自分の妾に……役をつけてやに下つてゐる××……」

「オイく、正月早々、あんまり憎まれ口を叩くなよ」

「これは道頓堀の話ぢやない何處かそこの話だ」

「ますく、奥商に物のはきまつたやうな云ひ方だね」

「そんなら芝居の話でもしやう

か……」

「それがいゝ、何か一つ話題をつかまへやう」

「その前に一寸云ひたいが、最近の芝居の出し物は新味に欠けてゐるやうに思はないか」

「オイ、もう悪口なら止せあんまり憎まれるとこの原稿はのせてくれなくなるぞ」

「ぢやア一層の事、原稿を書かないで、しゃべれるだけしゃべらせてくれ」

「どもならん奴や……まアいゝ加減の所は聞いておいてやらう何をそんなに腹を立てゝゐるのだ」

「最近の大阪歌舞伎の狂言だ、
「鴈治郎在世當時のやうな芝居がこの頃は見られなくなつたやうに思ふ」

「君は鴈治郎崇拜者で、鴈治郎の出てゐた狂言なら無條件に面白いと云つてゐたから、そんな眼で

この頃の狂言を見ちゃ面白くないだらう」

「もつと、大阪のエラ方連がフン氣してやつてくれないかと思ふネ、例へば壽三郎の如き、自他共に新人を以て任じてゐる俳優が、何かのチャンスに起つてくれないかなア」

「第一劇場は確かにいゝ仕事の一つだつた、もう一度やればよいと思ふが……」

「壽三郎の現在の地位からいへば、あゝしてゐれば一番無難だし好條件にめぐまれてゐる、が、俳優として、また世間から新人とか何とか云はれる人物として、あんな安逸な道を辿つてゐていゝのか知ら……」

「冒險をしない所に壽三郎のいゝ所があるよ、彼も仲々考へてやつてゐるよ」

「どんな風に考へてゐると思ふ

んだネ」

「それは判らないが、今時徒らにカラ元氣を出して、新しがつた所で、どうにもならないと思つてゐるんだらう」

「ぢやア、彼は近い將來に何かやると思ふか」

「何もやらんかも知れない、がそれでもいゝぢやないか」

「いやい、かん、世間から折角贈られた新人の名に恥ぢるだらう、某大新聞は彼の爲めに脚本迄募集してくれてゐる、だが、それも一片の讀物に終つて、上演される日がない」

「あの募集脚本には餘り香しいのがなかつたやうだ」

「香しいのがないにしても、何か一つ、壽三郎に新しい仕事をさせたものである」

「君の希望は松竹の大先生方に傳へておかう」

「壽三郎程の俳優だ、大阪劇壇のためと、一つ起上つてくれゝばいゝのに……ほんとに齒痒いやうな氣がする」

「もういゝぢやないか、君がいくらブン／＼云つても、壽三郎さん本人は、のほ／＼としておいでだからそれでいゝぢやないか、天下泰平だよ」

「天下泰平……。あんまり天下も泰平ぢやないぜ、海の彼方では歐洲が今にもひつくり返りさうだし、支那では蔣介石や張學良がやゝこしい芝居を打つてゐるし、劇壇もこのまゝ安閑とはしてゐられない……」

「ほんとに安閑とはしてゐられない、非常時だ」

「もう止さう、この對話、どうやらばやき萬歳みたいになつた、またこんど逢つた時は朗らかな話をしやう」

「そんなら此處らで別れやう、さやうなう」(終)

女

優

百

態

紅山人文

—— 東 愛 子 の 卷 ——

紅 文 山 人

家庭劇は此の頃素晴らしい人氣を呼んで居るが、東さんの人氣は又格別である。

彼女の演ずる役割が大抵關西向の女性を表現して居ることも大にその一因をなして居るに違ひないが、實物の東さんに接した人は大抵一度で好きになつてしまふ。いや、惚れてしまふと云つた方がいゝかも知れない、愛戀の情を湧發するエツセスが多過ぎる、近代的に云へば女性ホルモンの分泌が人一倍豊富なのではない。

私が東さんの部屋にソット這入つて行くと、彼女は雪肌のうなじを惜氣もなく、セツセとお化粧して居たが、人の氣配に驚くかと思ひの外鏡の位置を直し私の姿をクローブアツプしてニツト笑つたです。

「驚いたでせう？」

「いゝえ、ちつとも、誰だかは鏡が知らせてくれるのよ、オホホツ」

と、彼女は下を向いて笑つたです。話しながらも、彼女は絶

よー

「肩の芝居とは？」

「藝者だとか、奥様役だとう

しても下に向いて芝居をしなればならないので、結局肩で芝居をすることになるのです。女性の肩は性格の表現に重大な役割を演ずるものですか

ら」

「なる程、そう云へば、あなたには肩の愛情アなものがありますね、肩の曲線だけでなく、とても魅惑的ですね」

「こんなお婆アさんに曲線なんかあるものですか？」

「肩で芝居をする人の肩は確かに魅惑的ですね、肩に精神が集中されるせいですね！そして貴女の場合に肩は悲劇的要素を多分に持つて居ますね」



「悲劇的と云へば、喜劇の中でも特に悲劇的な役割が好きですの、そして、定めて悲劇的な役割が振られて居ますのよ」

と云ふ東さんの表情が段々と悲劇的になつて来るです。

「作家は誰が一番好きですか？」

「長田幹彦先生ですわ、先生は主として京都祇園情緒のものを書かれて居ますしその中の人物に私の役割を探してみるのが好きですわ」



市川右團次一代記

大川 澱 江

例年餅搗は師走の二十六日と極つてゐるのが高島家の家風で其日は朝未明より

支度をして出入の青樓よりは藝者、仲間等が押掛けて夕暮迄何斗かの餅を搗く、仲々賑やかなもので、明る元旦は門弟一統、禮者を交へて雑煮を祝い、高津神社難波八阪神社へ詣で川竹の五ツの櫓に禮

拜するといつた風に正月は極く嚴重な家例であつた。

明治三十一年の稻荷文樂座へ出勤が縁故となり、堀江賑江亭の席主藤原氏、南地紅梅亭（今は法善寺境内花月食堂となる）の席主原田氏、伊丹幸の森下氏は親族關係上尤も努力を盡され、右之助フア

あつた事を想ひ出しましたよ」

「長田先生の私生活は？」

と、訊かれた拍子に、

「先生出ですよ」

と、弟子が這入つて來たので、私達の會話の幕が下りました。

觀劇の感想

現代世相は餘りにも皮肉である。働けど働けざと唱つた詩人あり、厭世觀自殺犯罪等日々に人間面目には凡そ縁遠い事件の連續が社會を賑はしてゐる。煩雜と云ひ無味乾燥と唱へ或は效ない泣いてゐる人々の多大なる

ンの連中と計り、會員を募り組織しられた連中を(鶴連)と云ふ大連中其頃の組見の内での大連で大いに羽を延したので鶴連といふと大連中の嚆矢というても然りと思ふ。第一回の物見物には千有餘人の連中が集り人の目を驚かした。是偏へに後援者のよろしきを得て父右團次も「御ヒイキ」の有難さを繰り返し涙を流して喜ばれた、それより爾來鶴連は益々隆盛になつた折、恰も大阪毎日新聞社主催にて(大阪俳優人氣投票を募つた)各優必死の競争の形を造る、明治三十三年六月五日の中間へ切に二十七萬の投票を得て岡島新聞鋪より綴帳の寄贈を

受け、十月二十五日最終のべ切に(七十七萬七千七百票)にて人氣投票の最高點の榮冠を請けた、是あづかつて鶴連の賜物、此時に當つて一層力瘤を入れ投票紙の買込み諸優との競争の驅引は最眞客の一人(サラマングさん)と稱する紀の吉の主人が采配の振り方に大わらわの結果なりと、高島家ヒイキの人々は未だに咄しの種を残して居る、明る四十二年二月に又々大阪時事新報の俳優人氣投票があつた際も一等に當選、兩度共、綴帳披露には盛んな祝宴を開き右之助の前途を祝福したものであつた。

事だ。然し宗教的には解脫哲學的には空の本體を究む實社會には成功する事に依つて満足を得る事が出来るのである。其所に是非共一心不亂の勉強と百折不撓の忍耐が必要は言ふを待たない。座食して身の不運を歎いて居ては何等開發の法はない。自己の姿を公平に見究めて批判し反省し正しい道に向つて邁進し

色 十 人 十

松竹家庭劇 月丘 松子

(イ) 株主

(ロ) ロバート・デーラー型。

(ハ) 百米自由形(理由は泳ぎが好きです)

(ニ) アメリカ、イギリス、スイス(洋行します)。

(ホ) 『青の光』『或る目の出来事』『ダイナー』

O S S K 笠置シヅ子

(イ) 生家葉製菓とは如何?

(ロ) 矢張りシツクでスマートでチャーム

ングで：アライツIIレヴューの臺詞になりましたわ。

(ハ) ボクシング——理由——ノック・アウトを喰らつたら一寸の間でも寝られるでせう。

(ニ) 先づお届け下さい、そうしたら使用

途内譯表を提出致します。

(ホ) シュバリエの放浪兒、バリツ子等々

シュバリエもの……

新國劇 辰巳柳太郎

(イ) 漁業

(ロ) 女らしい人

(ハ) 野球(役者なれば僕より上手の者なし)

(ニ) もらつたら、競馬をやらします。

(ホ) 見たらすぐ忘れてしまふので。

てこそ意義あるものである。

人間融通を知らねばならぬ。自己本位に立つて他を顧みず唯一直線に進むは盲人腕に恐ずの類有害の伴ふは言ふも愚である。他人の不幸を面白く見、幸を妬む等言語同断である。

忠告は善意廣慮に受けねばならぬが、追従や「おやし」が是とする習慣上何うしても公平な評は得られぬ。て人の言葉の裏をも考へればならぬ、何と明朗を缺いたやな現狀であらう、仁義や眞面目が薄れて行く。

其所に救はれる途がある、曰く文學演劇映畫である、卑近に容易に人間修養の爲めさる所大である一寸でも多くの社會の様子を見聞して自分の處世に參考とするのである。自身を劇に活躍する人の各々にあてはめて自分の言動が眞の是非何れにあるかを知るは容易である。自身を客觀的に知り一人でも多くの人が冷靜に正しい理解のもとに更生して同情と勉強以て完全な附合ひを續けて行く事を切

望する。

觀劇に依つて忠孝正直仁義を教はり身を樹てにも亡ずも行程を如實に表現するで處世の波を乗り切るに必要な燈臺は此所にある。精々觀劇して總てを認知して潤ある世の中にしたい。(それがし)

泉南郡 林 ゆ紀子

梳久、紙治、梅忠、石切梶原等どん／＼やりこなして來た扇雀。もうお後は「小いな半兵衛」「敵討棲錦」等と數も知れてゐるがさて親爺様十二曲が種切れとなれば一體何を演るのやら……とまだ、若いのに老婆心を起して心配して居ると、案じるより何とやら、十一月は千本櫻の通しが出た。

近頃院本の細切れとか、むやみに新作物を並べ立てる趣向が多くなつた時には落ちついた興味ある通しものも結構だと思ふ。

例へば千本櫻にしても鮎屋だけでは第一彌左衛門がそは／＼と首をあげて出て來ても、それが誰の首やら又どこで拾つて來たのやらは觀客にピンと來ないし、權太にしても椎の木の場の惡黨振りがあ

つて初めて面白いものである。現在では上演時間の關係や場もちこたへられる箇所、又は事情が現代人の心にピッタリ添はない所等多少のクツト、改訂は仕方が無いがあまりカットで勘甚の仕所まで飛ばしてしまつたり、新解釋が反つて改惡になつたりする様な事は原作を侮辱する事になる、なるべく原作に近く忠實に出していただきたい。

忠實な通し狂言など出すことに依つて多數の第二世歌舞伎ファンが育てられるだらふと思ふ。(妄言多謝)

尼崎市 松川 靜子

浪花座が活動小屋になる。それならそれで小ぢんまりと近代的なすつきりした小屋をたてればどうでせう、よりによつて昔なつかしい芝居小屋を不自由たらしく改造せなくつてもよかりそうなもの、浪花座をとれば中一つになつてしまひますがな、とは云ふものゝこれは私ら勝手のはなし、其の道の人から云へば映畫劇場の方が興行成績上上なんぞでせう、淋しい話です。

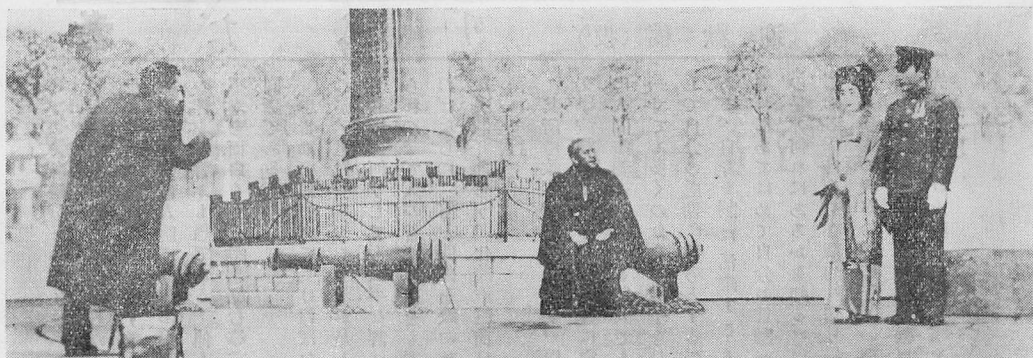
シ リ ウ タ オ ネ ー 核 結

… 科 病 柳 花 …

院 医 原 藤

★ 番 六 三 六 二 戎 話 電 ★ 入 西 側 ノ 溝 筋 橋 戎 ★

シ リ ウ タ オ ネ ー 核 結



懸賞

新國劇が一月浪花座で人氣を沸かせ

てゐる一舞臺です

狂言題は『?』

一等五人

二月興行の招待

券(劇場未定)

二等二十人

講讀券(一枚宛)

宛名

當誌編輯部

締切 二月十日

編輯後記

明けてからおめでたらうございます、本誌も躍進又躍進で本誌をもつて第百廿四輯を重ねました。これも諸先生、諸先輩、廣告主各位の御厚情の賜ものと編輯部一同深く感謝致して居る次第であります。

本誌は大變に遅れまして誠に相済みぬ次第です、編輯子もお正月の屠蘇氣嫌でウツチャリにして居たわけではないですが、とに角あれやこれやに追ひ廻されて思はざる結果となりました。

次號からは大いに頑張つて豫定の日までに發行出来る様努力致すつもりで居ります。

猶本月號から關西劇壇人の本誌のみに許された特寫を掲載することゝ致しました。この寫眞はさくらファイルムの小西六商店が特に本誌の爲に技師を派遣されましたもので、こゝに改めて同商店の御厚意を感謝致します。

本誌の同人で大いに頑張つて居られた源多徳三郎君が丁度校了近くになつて病を得られましたので君の意を繼ぎ本誌の編輯後記を書きました。

池尻勝彦

昭和十二年一月一日發行
月刊「道頓堀」第十二年
雜誌「道頓堀」第百廿四號

◇誌代は前金お拂を願ひます。
◇郵券代用は一割増にて御註文を願ひます。
◇御相談の上廣告掲載の需に應じます。

廣告取扱所

大阪電報通信社

大阪市北區中之島二丁目

廣告の御用は電通または當編輯部廣告係へ御申越下さい。

部一 金一拾錢(郵錢五厘)(稅)

本號は特輯號で三十錢

昭和十二年一月一日印刷
昭和十二年一月一日發行

大阪市南區久左衛門町八番地
松竹興業株式會社大阪支店
發行所 松竹興業株式會社大阪支店

共同編輯 山鳥上江鏡也
印刷所 松本泰三
道頓堀社印刷部

大阪市南區久左衛門町八番地
松竹興業株式會社大阪支店
發行所 道頓堀編輯部
編輯京都支部
京都市姉小路東洞院西
大橋孝一郎方

あぶら取紙始礎 辻と添附

スキナあぶら取紙

姉妹品

スキナ紙白粉
スキナ石鹼

昇竜特許 専用新案

スキナ御化粧紙

(あぶら取兼紙白粉)

各品共御愛用を乞ふ!

登録商標



大坂 朝日堂株式會社

大坂 中田スキナ屋謹製



昭和十二年十一月廿五日第三種郵便物認可
 昭和十二年十一月廿一日發行
 昭和十二年十一月廿四日發行
 昭和十二年十一月廿一日發行

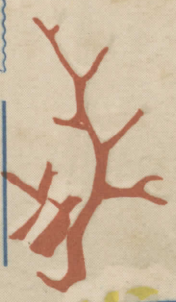


固形淺田飴

固形淺田飴は旅行、スキー、観劇、講演、聲樂家、其他、人混中に用ひて咽喉を保護し呼吸器病を豫防す

薬店 にあり	定價
	.30
	.50
	.70
	1.00

たんせき一切感冒
 百日咳喘息
 虚弱症産前産後
 咽喉の悪き人
 老人小兒の補血藥



本舗 東京 堀内伊太郎

「道頓堀」 第百廿四輯 第十二年 一月號

一部 金貳拾錢